

あの野蠻な裸体にてり映えていた鉄剣のしるしを、その曲線において、あんなに妖の部類に入らぬと云うのか、それならばいま眼の前にある風景が僕等には色白く描いた絵紙に似て見えぬのか、こゝろを頭裏をよぶのか



2 — 自らの思考で立て

全学自治会中央執行委員長 フジモト 昌 昭

6 ..... 戦後学生運動史

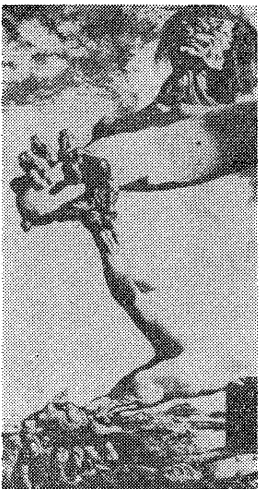
11 ..... 最近の情勢とわれわれの課題

15 INVITATION TO CIRCLES

14 ..... 市大行事案内

新人生歓迎会

委員長 安西 清尚



14 表紙 写真 ..... 毎日グラフ一九五八年八月号より 谷川 雁

14 歓迎会への誘い

おれは村を知り、道を知り  
 灰色の時を知った  
 明るくもなく 暗くもない  
 ふりつむ雪の宵のような光のなかで  
 おのれを断罪し 処刑することを知った  
 焔のなかに炎を構成する  
 もえない一本の糸があるように  
 おれはさまざまな心を集めて  
 自ら終ろうとする本能のまわりで焚いた  
 世のありとある色彩と  
 みおぼえのある腫がみんな  
 苦惱のいろに燃えあがったとき  
 おれは長い腕を垂れた  
 無明の時のしるしを  
 額にながしながら おれはあるきたす  
 歩いてゆくおれに  
 なにか奇妙な光栄が  
 つきまといでもするのだろうか

# 自らの思考で立て

## 学生運動の発展のために

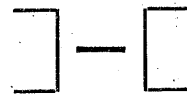
中央執行委員長

藤 本 昌 昭

君が入って 数名が落ちた 困難な 入学試験。入ったのは君のせいと落ちたのは彼らのせいなのか？そんなことを考えるよりも 大学に入った君たちは大きな期待と好奇心に燃えているに違いない。たぶん、突然、大きな自由を手に入れてしまったために、以前のように朝授業に出て夕方帰り、余った時間を遊んだり、勉強したりという与えられた生活を送ることは許されないだろう。今では、授業に出なくても試験前に1週間勉強すれば単位は取れるし、授業は大抵つまらない。24時間遊ぼうが自由だし可能だ。しかし自由だから、われわれは行為を選択しなければならぬ。例えば、当然のこととして勉強するのではなく、なぜ勉強するかを考うるし、また考えてから勉強しなくてはならない。自由になったために今までより却って厄介なことが訪れるだろう。なぜ勉強するのか、なぜ遊ぶのか、一流会社に就職するために勉強する？なぜ一流会社に入らねばならないのか？安定した生活をするため？なぜ安定した生活がしたいのか？金と暇があるとやりたいことが

できるから？じゃ職場で自分で選択できない仕事をして、景気のいい時でさえ、また職場に戻るのには十分な金と暇を稼ぐ生活を本当に望んでいるのか？ヒ弱く不安定な日本資本主義が「大学卒」に与えられる金と暇でやれることの実体はどんなものか？

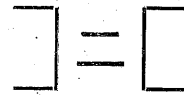
今まで当たり前だった一つ一つの行為をなぜやるのかを考えてから行なわなければならない。これが大学に入って大きな自由を獲得した意味である。



たぶんその時君は孤独を感じるだろう。当たり前だった行為を考えてから行うことは自分のこれまでの生活の全てを破壊して、自分で新たにその意味を一つ一つ考えながら作りなおさなければならないか故により一層孤独になるだろう。あるいは新たな生活を築く武器を自分は持っていないのに気

づいてガク然とするかも知れない。しかしそれは恐れるよりもむしろ歓迎すべきことなのだ。この辺をアイマイにして、あれもできる、これもできると、ガールまたはボーイハントから、マスターベーションと人間機能退化がせきのやまのアカデミズム、スポーツ、マージャン、擬似階級闘争に至るまで「ム所帰り」のように飛びつくと、なんのことはない、君たちが「あんな生活はいやだ」と大学へ入ることによって脱出許可証を得たつもの「片隅の幸せのための馬車うま暮し」にニヤニヤしながら入って行くのがおちなのだ。信用できなければ擬似階級闘争でもやればよいだろう。

ただ、親や教授や文化人などと相談したりしないことが必要だ。自分の生活は自分でしか作れないし、大底教授とか世のお偉方は昔は鮮烈な生活意識を持っていたにしても、今はやや安定した生活の中で目がトロロンとしてしまっているから、相談されても困るだろうし、常識程度のことしかいえない。自分より偉い奴はなく、自分のことは自分だけでもわかればよい方だという気持で、安易な連帯や友情を拒否すること、それが新たに入学した君たちへのわれわれのあいさつだ。



さて、大学に入っているいろいろな新しいことが君たちの生活に入ってくる。学生運動もその一つだろう。

今から3年前、赤い雷族、暴走する全学連等々政府やマスコミの欲しいままのキャンペーンを浴び、今にも吹っ飛びそうにいわれながら安保闘争の最先端を駆け通した学生運動は、その後分裂、沈滞を経ながら

も、昨年来の大学管理制度改悪反対闘争の過程で今再びよみがえりつつある。

「身にあまる」中傷とあざけりを浴びながらもなぜ全学連はびくともしなかったのか？なぜ学生運動はこれほど戦闘的であるのか？われわれにとって学生運動とは何なのか？学生運動はわれわれの生活、政治的民主主義、平和のための運動ある。だから、よくいわれるように、単に政治闘争（狭義の）のみを行うのではなく、サークル活動、研究会、生協活動、学内民主化運動（今問題になっている寮規約、学長選挙等々）から対政府運動まで、あらゆるものを包含している。

もちろん、世界に比類のないといわれる日本の学生運動の特徴は、反動化、軍事強化に対する政治的運動の大規模、戦闘性にある。それは何によって支えられているのだろうか？

(1) まず第1に徹底的な討論である。

権力が反動政策を行なおうとする時、われわれは、クラス、ゼミナールなどで、それが何故に反動的であるのか、これをできなくするにはどうすれば良いかを検討する。われわれのストライキやデモの行動はクラスでの決議や投票によって決定される。昨年の大学管理制度改悪反対闘争でのわれわれの三度のストライキは学生投票によって決められた。安保条約反対闘争の最終局面での最大の闘いであった6・15国会内抗議集会は、東大教養などでは国会突入、の方針をクラス決議して敢然と闘われたのである。

(2) 第2に、その戦闘性は実にその戦闘性の故に維持された。政府の反動的、軍事的政策と対決する時、われわれはその闘いかいかにすれば有効であるか、権力に対してどうすれば有効な打撃を与えるかを考えその闘いを徹底的に押し進める。従ってそ

の闘いの徹底性をわれわれは支持する。それ抜きでは闘う主体の意識や量の問題は語り得ない。全学連主流派（今の主流派ではない）は、安保闘争の最終局面において徹底的に闘ったが故に、安保直後の全学連大会では反主流派に対して圧倒的多数派になっていたのである。

学生運動の歴史は戦後復活する帝国主義との闘いであり、また占領軍、そして日本支配層の反動化に正しく対決しえない既成左翼との闘いでもあった。従って学生運動は様々な欠陥を持っていたが、しかし、闘いの先頭にある時、その位置は常に自力で切り開いたものであったということ、学生運動が存在しなかったならば、今少しでも有る政治的民主主義はより制限され、若干遅らされた日本の軍事強化は一層進んでいたであろうということ抜きにして、それは批判しえないのである。



日本の学生運動の独自性は、その規模の大きさにのみあるのではなく、またその日本政治史に占める位置は自然に生まれたのではない。それは、日本の他のインテリゲンチヤからの自律性、既成政党（社会党、共産党）との激しい思想的闘いの中から生まれたのである。

昨年、政府は、往々にして権力に反逆する大学の教授、学生を追放し、権力のいうがままになる大学にかえるために、大学管理法案を制定しようとした。これに対する大学のインテリゲンチヤの反対闘争には2つの潮流があった。1つは、学長と教授など国立大学協会を中心とするものであり、それは、権力がなぜ大管法を通そうとす

るのかを分析せず、ただ大学の自治、即ち教授のギルドの特権を破壊することは望ましくない、大学の不十分なところは自分たちで規制するから大管法は止めて欲しいとお願いするものであった。

一方われわれ学生は、大管法は憲法改悪に集約される政府・支配層の反動政策の主要な環として、現在、イデオロギー支配が目指されており、安保闘争以降後退しつつある大衆運動から、さらに闘いの思想まで奪わんとするものであること、従って、実力で闘うことを決定し、ストライキ、試験ボイコット、街頭デモなどで果敢に闘った。

この日本のインテリゲンチヤ運動の2つの分岐は次のことを意味した。日本の文化人、教授層は、戦後与えられた民主主義を受け取ったにすぎず、自分たちで考え、運動を組織したことがない。従って、安保闘争のごとく運動が全社会的に激動する時はそれに乗っかるが、現在のように安定モードになると沈黙するかお願いすることしかできない。彼らは、これまで自分たちで運動を組織したことがなく「君たちの気持は分るがまあまあ、といった「まあまあ民主主義者、であり、人造り国造りの合言葉のもとに支配層によって作られつつある新たな国家主義思想・支配層の「民主主義、に耐ええないものである。今では東大、京大のごとく、教授会は「大学の自治、の名のもとに大管法闘争を最も闘った学生を停学・退学など処分するのである。「そして他方、この戦後最劣等の荒木文相と、かつての自由思想家森戸辰夫の大学管理問題をめぐっての完全な意見の一致はもはや戦後ではないといわれる今日の現象の中でも極めて象徴的なものである。いわゆる森戸事件は第一次大争後の日本における著名な事件だが……〈戦後日本の思想〉」というよう

に、もはや戦後ではない。この時期に耐えるのは、自分たちで考え、組織してきた学生運動の思想民主主義である。他から自立したインテリゲンチヤ運動としての第1の意義がこれである。

第2に学生運動は既成政党（社会党・共産党）からも自立した運動であった。

日本の学生運動の歴史は、共産党との闘いの歴史でもあった。（共産党がなぜ誤ったかはここではのべないが。）

'50年当時、学生運動は共産党の指導下にあったが、学生運動史に輝かしい第1歩を標した反レッドパージ闘争は「冒険主義、悪質なトロッキストの煽動、という罵倒のもとに闘われた。更に52年以降は、共産党の極左方針（火災ピン闘争）と右翼方針（自治会室に針と糸をおいたり、ゴミ箱を作ったりすることが自治会の任務だとする「自治会サービス機関論」や、政治に目をつむる「歌と踊り、の学生運動）のジグザグの中に学生運動はズタズタに引きさかれた。従って、崩壊した学生運動の再建は'56年以降共産党と対立しつつ、学生自身の手で手探りに行なわれた。そして、対立が決定的になったのは安保闘争であった。

安保闘争において、全学連が常にその闘いの先頭にいたのに対し、共産党は多くの場合運動を妨害し「極左主義、挑発者集団、など全学連攻撃に専念したといつてよい。10数年にわたって全学連がこの自称民主政党、自称前衛から学んだものは、彼らの権威主義、自己以外はすべてを敵とする独善性と運動における無能力から訣別することであった。そして、自分の頭で考え、行動することのみが運動の真の発展をもたらすということであった。



今までのべたごとく、日本の学生運動を学生運動たらしめたのは、すべての権威（既成政党、既成インテリ）から自立して思考し、自分たちの行動を追求してきたことによってであり、ここにこそわれわれが誇らねばならないものがある。

今政府・支配層は急ピッチに憲法改悪に向けてあらゆる攻勢を進めている。戦後初めて支配層は自分たちの理念（大国主義）を生みだそうとし、また自分たちの民主主義を作ろうとしている。大学管理制度改悪反対闘争の中で、われわれは既に彼らの民主主義に屈した者たちを見た。支配者の理念、支配者の民主主義に適合した人間を作ろうとする国造り人造り政策も、意識されぬ中で進行している。

このままでわれわれは憲法闘争に勝利しうるだろうか。フランスのドゴールの改憲の場合のように、何の抵抗もなく改憲される可能性は十分である。

これに対する闘いはただ一つ、支配者の民主主義、支配者の理念に屈することなく自分たちの頭で考えた自分たちの論理で行動することである。

ぼくたちが青春をいかで生きようと、それはぼくたちの自由だ。だが、ぼくたちの生きる1日1日は、日本が反動化していく1日1日でもある。このことをぬきにしては、ぼくたちの存在は無意味なものになってしまうであろう。国家独占資本主義のどんな食欲がすべてをそのまんにみちた秩序のみこんでしまおうとする現代日本で、僕たちはどのように生きるのか、この問題にとり組んで自己の青春をはてしない模索にさきげよう。

# 孤立と弾圧の20年



## 戦後日本学生運動史

### 全学連結成 とその発展

戦前、日本の学生が抵抗することもできないで戦場へ追いやられたのは、何よりも当時の学生達が自分たちの要求をかかげ、自分たちの意志を主張し、あるいは自分たちの利益・権利を・命を脅かすものに反対して運動するための全学生を包みこんだ組織を持っていなかったことにある。戦後の学生たちは、戦前の「わたつみの悲劇」から、そして戦後の嵐のような運動の中から自らの生活と権利を守るために、自らの手による自治組織の必要性を身をもって学んだ。そして、次々と全員加盟制の学生自治会が結成されていった。そこでは、全員が討論し、戦前のように恐れることなく政治的な問題も取り上げられた。

自らの生活と権利を守るためには、政治的に無関心であることはできないという彼らの経験と自覚は、全国的な学生運動の展開の必要性と認識へと進み、遂に1948年9月、全国の学生自治会を連合した全日本学生自治会総連合（通称全学連）が結成された。その結成が、地方財界人を含む理事会

に大学を管理させようとする大学管理理事会法案に反対する、日本学生運動史上初めての全国的、かつ組織的なストライキ闘争の直後になされたということは、何よりも雄弁に全学連の性格を物語っている。そして同時に、世界に類い稀な日本学生運動の特質を明示している。

そのストライキ闘争によって大学管理理事会法案は廃案となったが、48年から49年にかけて今度は「大学法案」という形で文部省が再現版を用意してきたとき、全学連は、再度のストライキ闘争によって対抗し49年5月波状的なストライキの後、同月24日に全国140校（約10万）のゼネラルストライキをもって政府に国会提案を断念させたのであった。

### 反レッド・ ページ闘争

日本共産党は、戦後日本へ進駐してきたアメリカ軍を「解放軍」と規定したが、それが占領軍であったことは疑い余地のない歴史的事実である。それは、46年吉田内閣に成立を許した労働者階級が、国鉄、海員

労働者に対する首切りをはね返しつつ攻勢に転じ、階級闘争の新たな局面を自ら切り開こうとした47年2月1日のゼネ・ストを米軍が弾圧したことをもって全く明らかとなった。そして、49年中国革命の成功は、日本の戦略的位置を決定的なものとした。戦後の一時期攻勢にまわっていた労働運動は、時を同じくしていた下山、三鷹、松川などデッチ上げの疑いが濃い事件を契機に守勢に立たされ、50年、朝鮮戦争が始まるや否や、全国を吹き嵐れたレッドページによって無惨な敗退へと追いやられた。

このような情勢下において、大学に対しては進歩的教授の追放と学生の処分が計画されていた。CIE大学顧問イールズ博士は新潟大学で「共産主義者は教員に不適当であり、学生は政治活動をすべきではない」という演説をし、同じ内容の講演をするために全国の大学を巡回しはじめた。50年5月、東北大学、北海道大学でイールズの講演が学生によって拒否されるや、全学連のレッドページ反対闘争は激しく燃え上り、同年9月から10月にかけて決定的な闘争が展開された。東京では9月に東大を中心にかつてなかった試験ボイコットが行なわれ、10月17日の早大における全都学生大会には、多数の警官隊が混入して流血の惨事がひきおこされ、143名の学生が逮捕された。同月20日、全都の主要な大学はことごとくその門を閉じた。大阪市大は19日にストライキを行なった。このようにして、無人の野を行くがごとくに荒れ狂っていたレッドページは、学園においては徹底的抵抗にあって、遂に1名のページを出すこともなかった。

全産業がこの間2万数千名の被ページ者を出したことに比べれば、いかにこの学生の闘争が激しく、かつ輝かしいものであったかが理解されよう。

### 混乱と低滞 悲劇と喜劇

このような輝かしい闘争のあと、しかしながら全学連は、日本共産党の誤った指導の故に急転直下絶望的な極左行動に陥っていった。いわゆる火災ビン闘争であって、それまで全学連が培ってきた全国的な規模での大衆的な運動を放棄し、少数の「武力闘争」に埋没して行った。そこでは、情勢を科学的に分析し任務・方針を引き出し、クラスやサークルで討論・検討し、大衆的な運動として展開するという努力が怠られていたのであり、さらに、今から考えればおかしなことであるが、当時の学生運動の指導者は、日共の方針通りに「山村工作隊」をつくって、山や部落にこもり始めたのである。そして、何ら得るところなく帰ってきた彼らに与えられたのは、その反動としての学生の身近な要求と結びつかねばならないという日常要求主義であった。彼らは、せせとゴミ箱を備えたり、ダンスパーティーを開いたり、遂には自治会室に針や糸を備えるに至った。このような「自治会サービス機関論」は遂に全学連を機能マヒの伸よしクラブ陥らせ、55年には全学連は全く解体状態になった。

### 運動の再生 —砂川闘争

56年4月に開かれた全学連第8回中央委員会は、これまでの誤った方針を克服し、その直前東大で行われた授業料値上げ反対の運動を機として、伝統的な学生運動の精

神とスタイルを取りもどし、新しい路線を決定した。56年秋、砂川基地拡張反対闘争が学生の現地への動員によって闘われた。これは、53年当時の基地闘争のように、先進的部分のみをクラス、サークルと無関係に引き抜いて闘う方式と異なり、徹底的なクラス討論にもとづいた多数の学生の現地派遣による闘いであった。そして砂川闘争は流血の闘争によって遂に勝利したのであった。

## ク島水爆実験反対闘争

次いで57年、英国の核実験に反対して一連の運動が起り、11月1日国際統一行動に数多くの大衆が参加してその運動はピークをむかえる。しかし、量的に拡大したにもかかわらず、核実験阻止に有効性を発揮できないこの運動の中で、学生運動は、平和擁護闘争とは何か、真に平和を守るとはどういうことかという問題に突き当たった。日本や世界で反動化が進行している時この核実験反対闘争は真に「平和の敵」に打撃を与えているのだろうか等の疑問から58年5月の全学連11回大会は、真の平和とは資本主義そのものを止揚することであり、帝国主義を打倒することによって勝ち取れるという基本的認識に到達する。そして、「平和擁護闘争第一主義」と訣別し、日本の反動化、政府の反動政策、戦争政策に鋭角的に対決する運動へと前進する理論的基礎を確立した。

## 勤評闘争と警職法闘争

引き続き開かれた58年9月の第12回大会は、11回大会の路線を更に一步押し進め、「労学提携」といわれる学生運動の転換の理論をかちとる。そして、同年秋の勤務評定反対闘争、警職法反対闘争において更にその理論を深め、同時にその基本的正しさを確認する。このようにして、再生した日本学生運動は、理論的模索、試行錯誤運動をくり返しつつも着実に前進を遂げながら安保闘争を準備し始める。

## 日米安保条約反対闘争

安保反対闘争は1959年1月28日のデモから始まるが、最初のピークが形成されるのは同年11月27日のデモによってであった。その日、国会を取り囲んだ数万の学生と労働者は「神聖」な国会の門をこじあげ中庭に突入した。この学生・労働者の怒りの爆発によって、運動は新しい局面を迎え、安保改訂を粉碎するにはいかなる運動が必要であるかが明らかにされた。そして、それまで分りにくいと言われていた安保条約の本質—それは戦後不死鳥のように復活した日本資本主義が、一方では国内支配体制を更に強化し、他方ではとりわけ東南アジアに進出しようとする要求を条約的に満たそうとするものであり、戦後の保護—被保護の関係から、日本帝国主義の復活によってむしろ対等の関係に変化しようとしている日米帝国主義が先進資本主義国の力の接近という世界情勢の新たな局面を迎えるに当

てのどうしても必要な軍事同盟であったが全国民の前に明らかにされ、全日本的問題として安保改訂実力阻止の意見がクローズアップされた。

翌60年1月16日、総評、社会党、共産党が実力闘争を放棄し、あるいは国会内のおしゃべりに埋没し、労働者、人民の巨大なエネルギーを有効に組織しえないばかりか実力闘争を妨害する中で、全学連の学生によって、条約に調印するための岸の渡米阻止羽田デモが闘われた。岸首相は国民の目をかすめて、羽田の裏道からこそこそと飛び立ったが、この羽田デモこそは、全学連の孤立した闘いであったとはいえ、安保闘争の発展に極めて貴重な役割を果たしたのである。

4月26日、首都では数万の国会デモが展開された。他の全ての潮流が請願署名を手にして静かにお願いに行く焼香デモの中で、全学連のみが原則的に実力闘争を行った。この日、学生運動は行動として二つに分裂した。自らの手によって情勢を切り開き、運動を質的に発展させる努力を怠る一部日共派の学生指動者達は、反主流として姿を現わした。(彼らは後に全自連を形成する。)

## 激動した一ヶ月と後退

5月19日、政府、自民党は「聖で犯すことが出来ない」と自ら宣伝している国会に多数の警官隊を導入して、安保条約を強行採決した。翌20日より自然承認までの一ヶ月間は、日本中をかつて無かった激動の渦にたたき込んだ。しかし、運動は「安保

阻止」から踏みこじられた「民主主義を守れ」という誤った方向にそれて行った。

暴力によって議会での手続きが正当に行なわれなかったこの時点で、安保改訂の本質を明らかにしえず、運動の正しい方向、すなわち実力阻止への質的な発展をもたらすものではない。たとえこの時期の多くの民衆の気持ちは「民主主義を守れ」にもっとも近いものであったとしても、安保改訂の本質が前記の通りである限り、闘いはあくまでも安保改訂阻止でなければならなかった。指導者たちは、なぜ政府・支配層が自己の支配手段である議会制民主主義をふみにじっても安保改訂を強行しなければならなかったかを明らかにすること、すなわち安保改訂の本質を明らかにすることによって、政府・支配層の本質の暴露にまで進み、怒りに満ちている全日本の人民に闘いの方向を示し、労働者の無期限ゼネストを中心とした強固な安保改訂実力阻止闘争を指導しなければならなかった。しかしながら、日共、社会党共に何ら独自の戦術を提起し得ず、強行採決後、遅れた意識の民衆の参加とマスコミの運動への介入にのっかってあらわれた進歩的文化人の日曜大工的闘い「民主主義を守れ」に追従して自ら敗北を認める結果になってしまったのである。

この中で、全学連のみが安保改訂の本質を正しく把握し、闘争の主力である労働者たちが無能な指導部の手中にあって実力闘争を放棄させられている限り、闘いの勝利は望みえないことを知りつつも、しかしわれわれのなすべきことは安保条約改訂実力阻止であり、それによって労働者に真の闘いの方向を示すことであることを確認して、あくまで実力阻止を追求した。6月15日、国会を囲んだ全学連1万数千の学生は南通用門から国会に突入し、数10万の労働



者が国会のそばで流れ解散して行くなかで、狂鬼のような警官の暴力に血みどろになりながら闘った。運動には多かれ少なかれ犠牲はつきものである。しかしこの日、女子学生の死という悲しい犠牲を払わねばならなかった。この時全自連の学生は日比谷公園で歌を唱ってなにもなさなかった。

そして安保闘争は岸首相を退陣させたものの、安保そのものを阻むことはできなかった。また、全学連も戦術の相対的な正しさにもかかわらず、労働者たちの中に、全学連に呼応して労働者を指導する者がほとんどいなかったことなどにより、その思想によって無能な指導部の呪縛から労働者を解きほぐして行くことができなかった。

## 安保での知識人の動き

「全日本を揺り動かした」といわれるこの運動は後退を続けてきた日本反対制運動がもっているさまざまな特徴を鮮やかに示していた。その一つは、運動の最終局面には、進歩的文化人が擬似指導部を形成していたことである。このことは日本知識人の特質の象徴でもあった。すなわち、彼らは自ら政治闘争を独自の部隊として組織するのでなく、評論家的に現われ、政党が運動を十分に指導しえない間をぬって、運動の高揚に乗かってしばしば指導的役割を果たしてきたのであった。

日本知識人の持つ進歩性は、彼ら自身の日常生活そのものの方向性として生み出されてきたのではなく、天皇制の崩壊によって、自己の思想中心を失なった彼らが、戦後「民主勢力の躍進」のムードに支えられて輸入した思想が進歩的であったからであり、またそれは戦後の労働者、人民の運動

の一定の高揚に支えられて、擬似有効性を保ちえていたのであった。それゆえ知識人総じては「進歩的」なる冠をさずけられてきたのであった。このことは、日本支配層にとってきわめて不都合なことであり、大学管理制度改悪の主要な狙いは、この「進歩的」冠を支配者の手ではぎ取ることであった。

## 大管法と運動の再編成

安保闘争においていわば他人のために背伸びした闘いをしなければならなかった学生運動は、その後深刻な分裂に直面し、情勢に十分対応することができず、2年近くを経過した。

62年6月、前記の知識人の進歩性を抑圧することと、学生の厚生補導の改悪とともに、戦後大闘争の初期に急進的な運動を展開して火つけ役を果たしてきた学生運動を抹殺しようとする大学管理制度改悪がなされようとしていることが明らかになった。学生は直ちに反対運動を開始した。市大では新たに結成された全学自治会の力量を試す闘いとなった。運動体としてマヒしていた全国の大学はこの運動を機に再び活動を開始した。11月には波状的全国ストライキが行なわれ、63年1月には、京大は試験ボイコットに突入した。しかし、1月23日政府は大学運営法の国会呈上を断念した。1月24日、市大は全国で唯一校教養ストライキをもって、荒木文政打倒の闘いを行なった。大学運営法は一応阻止されたが、学長拒否権を内閣が握る認証官制など、大学管理制度改悪の問題はまだ多く残されている。これは、今後新入生の諸君と共に解決して行かねばならないだろう。

## 現在の状況を分析する

新たにわれわれの学友となり、入学の喜びにひたっている諸君の前にも、政府権力の攻撃はその手をゆるめない。その攻撃は多面的で、しかもそれは、憲法改悪の一点に集約されつつ動いている。そこで、現在われわれに課せられつつある問題を一一つ分析してみよう。

核兵器に象徴される、といわれる現代の危機は、「核兵器さえなくせば危機は解消する。」といったような単純な発想をもってははとて測ることのできない深く広いものである。日本においては、1960年全国民を巻き込んだ安保闘争が終結し、反対制運動が支配権力を何ら揺がすことなく敗北して以来、その危機はますます重くわれわれをとりまいている。安保後3年の現在、われわれは日本国家独占資本主義の巨大なメカニズムに縲み込まれ、資本主義的秩序による完全包囲の状況下に存在している。それは「平和と民主主義の勢力のますますの増大」などといった失認症のオプティミストたちのたわ言とはウラハラな苛酷な現実をなしている。

朝鮮戦争を契機として第二次大戦の痛手から立直った日本帝国主義は、50年代末から重化学工業を中心とする巨大な設備投資によって自らを一流帝国主義に飛躍させたのである。一方世界的に見ると、59年に結成されたEECは西独、イタリア、フランスを中心に著しい発展を遂げ、その結果米国の地位は相対的に低下する。そして世界的に漸く過剰生産のきざしが見えはじめる一方、経済的ヘゲモニーの多元化は激しい国際市場競争を必然ならしめた。このよう

な情勢下に、既に国内需要を遙かに上回る生産力を保持している日本資本主義も89%の貿易替為の自由化を断行し、市場競争に乗り出すのである。未だアメリカをはじめとする先進資本主義諸国に比べて相対的に弱体化した日本資本主義が、この激烈な市場競争を勝ち抜くためには対外的な劣勢を国内における搾取の強化により補なわねばならない。国内の人民大衆を完全に支配し、労働者の低賃金を維持することによって製品のコスト・ダウンを計り外国の低廉な商品に対抗する以外には方法がないのである。国内プロレタリアートの犠牲による海外進出と国際市場競争における勝利こそが日本資本主義の現局面における最大の課題なのである。

日本のプロレタリアートは戦後世界に比類のない戦闘性を発揮してきた。しかし彼らは日本帝国主義の復活・強化に反比例して後退していった。そして'60年の2つの闘争、安保闘争と三池闘争の敗北は、彼らに決定的な打撃を与えた。以後労働運動の右傾化はますます急速に進行している。

このような経済社会情勢を背景としたブルジョアジーは、帝国主義的経済構造にみあった政治体制をめざしている。今後予想される激動期をのりきり、国際競争に勝

利するためには、国内プロレタリアートの徹底的抑圧が必要であり、それはフランスのド・ゴールが成功したように執行権（行政権）の強化・独裁化によってのみ可能である。帝国主義的政治体制とはこのような軍隊・警察を背景とする執行権の独裁をさすのである。このような政治体制は現在のいわゆる「平和憲法」による政治体制では実現されえない。政府は過去一貫して憲法の形骸化、空洞化を行ってきたが、そのような部分的変更では国家の全機構を変革することは不可能であり、ここに国家機構そのものの変革として改憲（実は新憲法の制定）が必要とされてくるのである。従って憲法改訂は単なる諸反動立法の積重ねではなく、それらとは質的に異なるものであり、いわば戦後日本資本主義の発展の政治的総括であり日本帝国主義のより高い段階へのステップとして存在しているのである。従ってそれは現局面における最大の焦点であり、現在の政治過程は改憲に集約されているといっても過言ではない。具体的な政治情勢を概観すると、政府支配層が現在最も力を注いでいるのは、一つは、強力な国際競争力を持つ新産業体制の確立であり、もう一つはイデオロギー攻勢である。帝国主義的政治経済体制の確立に向けて進んでいる政府支配層にとって、それに適合した新しいイデオロギーが必要なのである。

右傾化した労働運動をその地点に固定し労働者に新しい国家主義思想（それは戦前のように直接国家主義として現われるのではなく、企業意識としてあらわれる）を植え付け、イデオロギー的にも支配せんとするものである。これが「人づくり」と支配層が呼ぶものである。そしてイデオロギー支配をめざす政府が目をつけたのが大学であった。大学は社会における最高のイデオロギー生産の場であり、教授たちの発言は

「大衆社会」化している現代社会で多大の影響力を持っている。従って大学を自己の直接支配下に置き、国家主義イデオロギーの生産の場とすることは、イデオロギー支配の重要な布石となるのである。このような意図から政府は大学管理制度の改憲（今までは文部省の監督下に各大学の教授会に委ねられていた大学管理権を実質上取り上げ、大学を直接支配しようとするもの）を意図したのであるが、この問題は今に至っても決着がつかっていない。

また、現在動揺しながら進行している日韓会談、更には今年末に予想されている憲法調査会の最終報告、及び小選挙区制をめざしている選挙制度審議会も改憲へ至る手続きとして存在している。

憲法調査会は、その設置の動機や現在までの活動からみただけでも明らかな通り、改憲を前提にしたものであり、改憲ムードをあおり立てる絶好の手段となっている。それはまた現在では改憲のための唯一の公式機関であり、一般的には改憲のための手続の一部をなすものである。

日韓会談は韓国に対する日本資本主義の進出のきっかけとして、そして崩壊にひんしている韓国資本主義の援助のために行なわれるものである。それは国内における改憲への動きとともに、帝国主義政治体制の一環となっている。

小選挙区制は言うまでもなく、改憲に必要な両院に3分の2以上の議席を獲得するための手段であり、改憲に直結するものである。

現在が歴史の転換点であるといわれているとき、われわれに必要なのは、その意味を徹底的に追求することによって、現実の状況に大胆に係って行くことであるだろう。

## 学内問題をめぐって

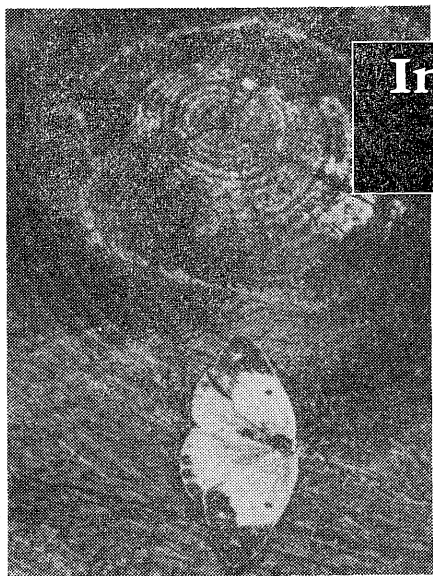
学生運動といっても、必ずしも政治闘争ばかりではない。自らの利益を守る上で、それは学内問題にも眼を向けてなされねばならない。今問題として提起されているのは3つある。昨年後期から闘争を組んできた新々館問題は、病院労働者の労働強化、研究施設の不備、市の大学に対する直接の介入、大学を利潤追求の場にするなどの点で多くの問題を含んでおり、今後も建設中止を目標に闘わねばならない。また、今年3年ぶりに行なわれる学長選挙には、大管法問題のりから、学生の信頼できる学長を推したてねばならないし寮については、寮を学生の手で運営してゆくために、大学当局との交渉、闘いを通じてそれを勝ち取らねばならない。ここでは、今年直接に表面化してくると思われる学長選挙、寮規約問題をとりあげてみた。

**寮規約問題** 今全国での寮規約が問題となっているのは、政府の大学への弾圧がきびしくなりつつある中で、学生生活そのものに波が迫っていることを示している。今冬、大管法と共に学生の厚生補導について答申がなされたが、それが学生生活の支配を意味したのと同じ次元で考えねばならない。現在規約で問題となっているのは、入退寮に関することである。

数年前から大学側、学生間で紛糾しつづけた規約問題は、一時学生部委員会と学生とに意見の一致を見たかきであったが昨年7月大学協議会で差し戻されてしまった。その理由は4点だが、最大の問題は入退寮を当局が決める、という点だった。それは、寮は市のものであり、そこへの出入は学校側に決定権がある、というものである。しかし、寮の生活は単に市の営造物ということだけかたづけられものではなく、建物管理のもとに入退寮権を大学が握るということは、事実上寮生の全生活を支配するということである。従ってわれわれは、入寮、退寮は寮生の決めることであり大学に関係なし、という見解でこれまで闘ってきた。われわれは、これを学内運動の一環として闘いを組まねばならない。

**学長選挙** 今年9月には、福井学長の任期がきれるため学長選挙が行なわれる。池田内閣による大学管理制度改悪が、大管法の国会呈上は取り止められたとはいえ、認証官制度等に見られるごとく、学長や上層インテリたちを丸抱えする形で着々と進められてい現在、学内管理体制の最高責任者を決定する学長選挙は学内民主化の上で非常に重要性もっている。現在市大では学長選挙に際しては学生にも推せん権があり、3年前の学長選挙において全学生が一致して現福井学長を推せんしたことがある。今回の学長選挙では、昨年の「医学部新々館問題」で反動性を発揮した医学部から、有力な候補者がでることも一部では取りざたされており、もし反動的な学長が選出されるならば、これまで他大学に比べて事務官僚による学生の自治活動、サークル活動への干渉が少なかった市大でも、他大学に見られるような干渉が激しくなるだろう。われわれの既得権—推せん権を行使すること等で（特に最近文部省は学生の推せん権に対して非難をあびせている）このような動きを押え、学内の民主化を推進する必要がある。





## Invitation to Circles

君の入学が「おめでとう」という祝福によって迎えられるべきか否か、また「オメデタイ」としてしかないのであるまい。しかし、たとえ君の入学が種々の障害を克服した上で達成されたものであろうとすでに君の入学という行為は君自身新しい状況に導いているはずでありその状況との緊張関係において君が選

取ってゆく行為のみが—その場合、非行為が行為と同等の重みをもつことはありうるのだ—君の入学の意味とその後の大学生活の有意義ないし無意義を決定するはずである。多くの授業において一方的な受け手、聞き手でしかない君が—主体として、すなわち状況に規制されつつ同時に状況へ何らかの影響を与えてゆく存在として生活しうる、またせざるをえない唯一の場はサークル活動であると確言しうる。この世界が今まで存続してきたことが直ちに今後の存続を正当化しえないのと同様に、今あるサークルがそのままの形態と内実を保持せねばならぬ理由はどこにもない。現在の状態に埋没することなく、新しいものへ変革してゆく要素として君が参加することを各クラブ、サークルは望んでいる。クラブ、サークルから送られた君へのラブレターを以下陳列して君の応答を心から期待する。

## 体育関係

### 山岳部

激しい受験勉強の反動として湖面の静寂を求める。すなわち安易な消極的な悦楽に耽りがちだが、人生に於る最も飛躍を期待される時期にある君はもっと積極的なものを求めるべきであろう。現在の日本では登山は伝染病のごとく蔓延し、世を風靡している。それに伴い遭難も増加するという極めて悲しい状態にある。その中にあ

てわが市大山岳部は40余年もの伝統を誇り、あくまでゲメインシャフト精神に則り、スポーツアルピニズム（より高くよりけわしく）を追求せんとするもので困難を求めこそすれ困難を危険と区別し、その困難を克服する。すなわち自然を媒体として、自己との葛藤を行うのである。共に悩み共に苦しんで得た悦楽は算術級数的に増大していくものである。山男はただ独り山に行くのではなく山男たちと共に山をゆくことであってそれだけに山で結ばれた友情は実に素晴らしくこれが長い人生のほんとうの支えとなるだろう。

また、世界を広く知ることも必要だ。幸いにして来春再度ヒマラヤ遠征することとなった。今や準備も着々と進歩し部の意気も正に絶頂に達せんとしている。市大山岳部は常に考え、行動する部として市大屈指の素晴らしいクラブである。激しい競争を勝抜いてこられたファイトのある君には、合格の感激を山岳部で昇華させることをお勧めする。

まずは山岳部の門をたたかれよ

さらば道は拓かれん。

（記、チーフ・リーダー、C4、常慶和久）

### ヨット部

本クラブはわが国ヨット界の草分け時代に創設され、以後関西水域のリーダーとして活躍してきた。したがって、その規模も大きく現在西宮ヨットハーバーに合宿所兼艇庫と17艇のヨットを保有している。今年度はオリンピック艇を新造し、さらに飛躍しようとしている。部員は男子25名、女子3名で女子部は関西唯一の存在である対抗戦はほぼ全国に及び、隔年遠征を行っている。伝統の古さを物語るものであろう。昨年度の対戦成績は全勝で、国体大阪府代表を独占するに至った。

練習は原則として、土、日の9時から西宮ヨットハーバーで行い休暇を利用して合宿を行う。入部金は500円、部費は1月200円、合宿費は1日100円程度で、個人出費を最少にするため努力している。学生である以上、勉強と両立しなければならないが、その点ヨットはシーズン制だから最適といえる。都会にオゾンが不足する昨今、週末に海を散歩するのは健康法の一つであろう。高校時代に本格的なヨットの経験のある者は皆無であるから出発点が同一である。夏季休暇にヨットで瀬戸内海を巡航する楽しさはヨットならではであろう。しかし、楽しい事ばかりではない。レースのきびしさは格別だし、練習日数の豊富な私立大を押えるために練習には自ずときびしさが加わる。だが、きびしさの中にどこやかさを失わない事をわ

われわれは誇りとしている。経済学部長、西川清治教授のご指導の下シーマンシップの養成に努力する若人の集りである。

〔連絡は、西宮（4）2765—主務中村、へどうぞ〕

## フロイント

大阪市立大学体育会フォークダンス部が正式の名で通称フロイントといます。`フロイント`とは独語で`友達`のことでフォークダンスを通じて互いに知り合い友情をつちかい、明るく知性あふれる人間になろうとするクラブです。フォークダンスとは民族の踊りです。世界の民族は全てフォークダンスをもっています。そしてそれぞれ民族特有の味を持っています。その反面例え民族が違ってても共に自然発生的な性格を持ち、極めて自然で素朴な踊りです。現在`フロイント`は30名の部員を有し、男女の比率はやや男子が多く、学部も全学部の人が集っています。練習は毎週一回月曜日五時から卓球場で行なっている他、新入生のための練習会も土曜日に行なっています。又毎月二回土曜日に`アベノ体育館`を借りて`市大F/Dの集い`を開催しています。

入部お申込みは直接部室（自治会室ウラ）までお越し下さるかあるいは下記住所まで連絡をして下さい。お友達も誘って気軽に…

大阪市住吉区遠里小野町三ノ六四

近藤方 松田高正

## ワンダー フォーゲル 部

新入生の諸君、御入学御出とう。

さて、諸君は、「ワンダーフォーゲル」という言葉で、少なからぬ好奇心を抱かれた事でしょう。「ワンダフォーゲル」、称して`ワンゲル`とは、ドイツ語で、「渡り鳥」と訳され、「自然遍歴」を意味しています。即ち、現在まで残された、ありのままの自然をたづね歩くのです。山々、山村や魚村、海岸等々を歩きまわります。更に又当市大ワンダーフォーゲル部では、パーティーを組む、リーダーを設けて、団体行動をとり、団体生活を通じて、自然に親しみ、そこに生れる、仲間同志の協力、友愛等々を通して真の友を持ち、自己を成長させてゆく事を目的としています。

現在、部員数は約80余名の大部隊です。又、テント等の野営道具も部に設備してあり、現部員は全員入学当初から活躍している連中です。新入生の諸君、入学の幸福感を更に一段と高める心の充実を求め、そして青春とすばらしいエネルギーを発揮して、われわれと一緒に自然をたづね歩こうではありませんか。きっと充実した大学生活を送られると信じます。

## 卓球部

我部は昭和7年創立されて以来三十有余年を経過しましたが、古き伝統に安住することなく、新しきカラーを植えつるべく絶えず努力を重きねております。このためにも新入生諸君の意思と若さをわれわれは待ち望んでいます。昨年は春季、秋季両リーグの制覇、旧三商大戦優勝、在阪国公立戦男女完全優勝と第三次黄金時代を築きあげたが、これを継続し、より強固にしていくためには、われわれ部員一同言うに及ばず新入生諸君の双肩にかかっていると云っても過言ではない。このためにも新入生諸君の若さと情熱を期待します。我部は絶えず`部員相互の和`をモットーにして運営され、運動部にありがちな封建性もなく、部内はいつも和気あいあいとし、皆楽しく大学生活をエンジョイしている。この`和`こそ黄金時代建設の要であることは言うに及ばぬことでしょう。新入生諸君ノ向う四年間君らの若さと意思と情熱を注いでも悔いのない部がここにある。われわれ部員一同門戸を広くあけ諸君を暖かく迎えるでしょう。

## バスケット ボール部

当部は大正末、同好者が集まり大阪商大籠球部として活動を始めて以来約40年その伝統を作り上げて来た。

戦前、本大学は高商部と学部に分れ、六年間部生活を送り得たので部員数にも恵まれ、京都大学と共に関西バスケットボール界の雄であった。26年大阪市立大学籠球部と改称された後、32年春まで、関西一部にランクされていたが、種々の理由により三部にまで転落する憂目をみた。しかし昨年、二部昇格を果し、現在では一部昇進を目標として部員一同努力しているのである。従って、その意味においても一層の飛躍は、新入生諸君の加入に期待するところ大である。又プレイをしていく上において、自信の持てない人でも、マネージャーとして、当部に参加してもらいたい。

部員、マネージャー共にフレッシュメンの加入をみて、さらに活気にあふれたチーム作りに進みたいと思う。

## バドミントン 部

・春です。新しい時代、大学時代、しかしそれは皆さんが一人一人で楽しくものです。大学は皆さんに素晴らしい贈物を与えてはくれませんが、皆さんが苦しんでそれを自分のものとすべきです。そのためには勉学に励むのもいいでしょう。さらにサークル活動によってもちがった趣をもった贈物は与えられるでしょう。私たちバドミントン部員はその贈物を自分たちの手で獲得しています。苦しいこともあります。しかし、その何百倍も楽しいのです。その楽しさがいかな

るものかはこのべることはできません。とにかく文句なしに楽しいのです。皆さんがわれわれのクラブバドミントン部に入ってそれを感得して下さい。

大阪市大で最も楽しく、そして充実したクラブだと部員一同自負しております。現在男子30名、女子10名程です。また教養体育館にてほとんど毎日練習を行なっていますから是非一度御覧下さい。2号館裏のクラブハウス内の部室、体育館にていつでも御質問、入部を受け付けます。お気軽にお越し下さい。バドミントン部は皆さんの期待される以上の何ものかを必ずや与えてくれるでしょう。

### 硬式庭球部

わが硬式庭球部は、その旧き伝統と輝かしき戦績とにおいて本学随一であり、現在に至るも規律ある訓練、若人の熱と和と意気がクラブ全体に満々としている。大学内における最も有意義なる生活態度は、硬庭部にありと部員一同自負している。従って当然の事ながら練習は厳しい。しかし、われわれはその厳しさにあえて立ち向うところの勇氣をもった若人たちの到来を待っている。ちなみにわれわれの熱意を示すものとして、先輩から寄贈していただいた、クラブハウスを紹介しよう。この設備は大学内のクラブ施設としては日本一のものであって、風呂はもちろん、シャワー室、キッチンまで完備されている。来年度にはアンツーカーコートがさらに一面建設される予定で、まさに躍進の一途をたどっている現状である。この期に当り当大学に入学された諸君は誠に幸運である。憶する事なくどしどし入部されたい。具体的な事由に関する質問があれば直接ハウスまで来られたい。キテネ。

### 準硬式野球部

われわれの準硬式野球部は昭和25年秋に誕生し、同32年春に近畿学生軟式野球連盟に加盟し、阪神六大学の中心となって大いに活躍しています。わが部は昭和33年春季リーグ戦において初優勝し、西日本大会に出場し、その後も絶えずリーグの上位に位置し健闘しています。もちろん、われわれの本分である学業に差しかえぬよう十分に考慮していますが、練習を勝手に休むことは特別の理由のない限り許されません。新入生諸君の中には難しい試験勉強のため運動から遠ざかっていること、または未経験であることを理由に今さら野球など始めても到底無理だろうと考える人もあると思います。しかし、われわれの部においても高校時代の真の経験者は極めて稀でほとんどが初心者です。たとえ最初は技術が未熟であっても努力に努力を重ね、練習で鍛えぬくことによってそれは克服されます。

全員が一つの目標に団結してまい進し、勝利を勝ち取るための猛練習に耐えることは苦しいことであると同時にその苦しさの中にいうにわれぬ愉しみがあるものなのです。また夏期の二週間近い合宿や遠征旅行などいわゆる私生活にわたる分野まで共にする機会が多いためお互いの悩みや不安を慰め合い激励し合える親友や先輩を得られることは確実です。

野球用具の準備等である程度の費用は必要ですが、新入生のユニホーム等はこちらで一括購入します。最初は大抵2千円程度用意しておけば充分です。要するに技術の上手、下手、経験、未経験を問わずファイトのある人、熱心に練習する人の入部を期待しています。

## 文化関係

### 劇団 つのぶえ

当劇団は発足以来13年目を迎え、大阪学生演劇界の雄として、きわめて意欲的に活動しており、現在のいわゆる新劇の随落した芸術至上主義や政治主義打倒を旗印に、一貫して真の芸術性・思想性を有する現代的な演劇を追求して来た。われわれは小市民的文化運動の延長上にあるアマチュアリズムを排すると共に社会主義実現の政策の一つの手段としての社会主義リアリズムなどなどの狭い視野に立った演劇をのりこえ、人間の意識(体制意識・ブルジョア意識等々)そのものの根源—実在的人間存在と、そして、それらの根底にある基盤—資本主義生産機構を正確に認識し、その変革をも志向しており、その表現手段を演劇に求めている。

常に芸術は芸術的想像力をもつて、自己変革を行いつつ、人間の意識的根源とその形成基盤から規制される生活共感の変革を本質としている。演劇とはかかる意味において、全人間的展開と社会状況の暴露を通じて、芸術そのものの現代的可能性を追求して行こうとするもので、これが総合芸術と言われることとの真の意味なのです。

従って、つのぶえは単なる演劇愛好家の集団ではなく政治優位の現在において、芸術独自の視点から現代の状況に対して自己の主体をかけて文化活動をやる者たる者の集団である。かかるユニークなサークル活動として、つのぶえは意欲ある男・女諸君の入部を歓迎する。希望者は随時部室までお越し下さい。

## 雑誌「争端」

「人は生きなければならぬ。もし彼が自己の存在を主張するのなら。生きるということは意志の表現であり、それ自体が行為である。しかるに生存とは、いわば客体的な現象であって、生きるということと同じではない。状況はわれわれに生きることを拒み生存させようとする。巨大な資本のメカニズムの中に組みこまれたわれわれの存在は、市民という美名を冠せられてバラバラに分解され窒息しようとしている」この危機的現代にあつて、雑誌「争端」は「徹底したエゴの貫徹と、厚く巨大な状況の壁をぶち破る変革のアイデアとその方法論を確立する」ために、昨年末発刊された。

以来既刊四号、毎月ガリ版十数頁の粗末な外観の中に、新しい視点と強い意欲をもった評論（政治論文・哲学論文・詩論・芸術論）や創作を毎月市内の鋭峰に寄稿を受け、営々として新しい文化と理論を打ち立てるべく努力している。

新入生諸君、われわれの努力は地味で労力のいる辛い仕事だ。しかし、そこに新聞や伝統的諸雑誌とは違った面白さがある。本当に自ら新しい理論と文化を創造しているのだ、という喜びが毎月ある。あるいは空しいかも知れないわれわれの仕事を共に分とうする諸君は、その思想の如何を問わず歓迎する。但し、西も東も分らぬ有三無生は困る。定員は男子二名女子一名。連絡は、〆つのぶえ、部室まで。

発行者・安西清尚（文二）

いろいろの人々から「入学おめでとう、ときまり文句を連発されたことでしょう。フィールド編集部も、この、何度聞いても気持ちよい文句を、まず心からお送りします。入学おめでとう。

さて、名称からしても少し奇妙なこの「フィールド編集部」について説明します。当然、当部の歴史を語りながら紹介するのが本筋ですが、字数に制限がありますので、簡単に、最近の当部内の様子だけを述べてみます。当部は、「フィールド」という自然科学雑誌を発行することが、本来的な活動でした。しかし、今は、この本来的なものに拘泥せず、より発展的な姿勢をもちつつあります。その姿勢を強化するために、最近、「止揚」という雑誌を創刊いたしました。この雑誌の編集方針は、自然科学、科学技術の正常な発展のために、という少々大きいスローガンのもとに、あるのです。

「止揚」No.2を発行して、よりその性格が、明らかになってきているのです。雑誌を創る側としては、読む側とはひじょうに異なった興味深いことがあります。この紹介の文を読まれる時分には、「止

フィールド  
編集部

## 青 桃 会

場」No.3が、みなさんの手の近くにあるでしょう。手に入れて、熟読されれば、創る側としての面白さを経験してみようと、必ずや思うでしょう。後ほど、部室を公示いたしますから、気楽に来部して下さい。いろいろな質問をたずさえて来て下されば幸いです。

ご入学おめでとう。

青桃会がどんなクラブかを紹介して君たちのクラブ選択の資料にしてもらいたいと思います。部員数は、四回生が三月卒業してしまったのではほぼ三十人、男女の比はここ数年一対一で商経法文、理工、家政、医学部と全学部の共同世帯で、バラエティーに富んでいます。おっと部員数なんか先に話してしまつてかんじんなことを忘れてしまつてはいけません。絵に興味がある人、絵を描きたい者の集りで、少しでも絵を描きたいと思っている人、展覧会などに興味のある人なら誰でも大歓迎です。さて一年間の活動内容は、スペースの関係で入つてから知つてもらうことにして、3月19日～26日の春合宿を今から迎えるにあつての抱負の述べて、大体の様子を知ってもらうことにします。空気の良い辺境の地、鹿児島での男12人、女12人、総勢ほぼ24人の食べるのも、絵を描くのも一緒トランプ、麻雀と遊ぶのも一緒のわずか六日あまりの生活はそれでも青桃会というクラブに入っていないければ味えない経験であり、お互いの絵の上達の面でも、人間を知りあう上でも大きな収穫を与えてくれることでしょう。うまくいけば君たちに、合宿の成果を野外展の形式で批評してもらえかもわかりません。是非みて下さることをお願いします。

## F・L・D

Foreign Languages Departmentの略である。ESS (English Speaking Society) と少しばかり異なるのは、同好の者が集つて French も German もやるという点である。ただし、クラブ全体の活動として行なうのは English のみである。

年間を通じての三大行事はサマー・キャンプ（夏休みを利用して一週間程、信州、北陸などにおいて合宿する）英語劇上演（これは大学祭参加のためのもので、出演者は一回生）旧三商大英語討論会（多数の外人審査員のもとで、一橋、神戸大学と諸問題の討議を行なう）その他、年間を通じて他大学との交歓会、ダンス講習会、弁論大会などがある。

さて、問題は諸君が如何なる目的意識を持って入部するかである F・L・D 入部者たる資格は先ず第一に英語を master してやろう

という気力と目的である。そして、それ以上のことを、F・L・Dは諸君におしつけない。目的は何であるべきかをめぐって口やかましく論ずることはあまり意味あることではない。われわれが今ここで諸君に保障できることは、そしてそれが一番肝心なことなのだ。「全部員はクラブ活動を通じての諸問題について真険に悩むことによって、語学力の上昇と共に、必ずや人格の向上をも期待できる」ということである。

## 理工

## E・S・S

本クラブは結成以来約10年を經過し、理学部工学部の学生のみで構成され、顧問には応用物理学科の三戸教授の指導を得ている。その目的は英会話に練達することはもちろんであるが、まず英語に親しむことを第1段階の目標にしている。そして理工系の専門用語や専門洋書（特に英語）に慣れマスターすることにも努めている。その他に、本クラブは理工系における唯一のクラブであるので、先輩より専門分野の状況や知識なども得られることができる。活動内容としては、テープレコーダー、レコードプレーヤーを備え、教会のシスターによる指導、校外での外人との接触、他校との交流、合宿等々を行なっている。またクラブにおいて部則を有しまとまりを保ってユニークな存在として今日に到っている。今日においては実用的英会話をマスターすることは当然必要なことである。

英語に慣れ親しむことを希望する理、工学部の学生諸君の多数の入部を歓迎し心から期待するものである。

## S V C

Student Volunteer Club とはわれわれ部員が大学生としての立場から現代社会において必要と見なされる諸々の社会福祉活動に積極的に参加し、これを研究するのを建前としています。現在クラブの主力は愛染園児童部学習会と大阪市中央児童相談所一時保護所での活動に注がれていますが、特に愛染園（日本橋4丁目に所在）では、社会事業短大とともに付近の小中学生を対象として学習指導生活指導を行い、この場を通じて地域へ浸透し、全般的具体的地域活動を行ってゆくことが意図されています。昨年6月より取組んだ活動ですが、既に幾多の問題が山積され、行く手は楽観を許さないものがあります。

このSVC活動は奉仕慈善の精神に源を発しているが、そうであっても、それのみ留まってはならず、各自が強烈な目的意識、問題意識をもって現代の社会矛盾と真向から対決しまたそれを解明していこうとする意欲が必要とされるのです。

以前は家政学部社会福祉専攻生がその大半を占めていた部員も、37年度よりクラブの本拠を杉本町に移すことにより、全学的なものに拡大発展した。従って37年度はSVCの発展期であったともいえます。部としては、春期休暇中に1年間の活動総括を通して何らかの方向づけをし、クラブ理念を今一度明確化しようとしています。

## 探 検 部

探検部などという部は中学・高校を通して全くなかったであろうし、大学においても数少ない存在である。それだけ探検部は諸君にとって未知の魅力を持っていることであろうし、事実その期待に応えるだけのものがあると確信している。

探検部ではフィールド・ワーカーの養成がその主な課題になっているが、これは従来の消極的な学習態度を一步進めて、本等で得た知識をフィールドに出て実際に応用するところに意義がある。山に登っては植物や昆虫や岩石などを採集したり、鳥の声を聞いてはその鳥についての認識を深めたり、また山村や漁村で村人から村の歴史を聞いたりしている。最近では軽量ボートを用いて日本列島を横断したり、カンボジアへ学術調査隊を派遣したが、これらの成果は近いうちに報告される予定である。このようにわれわれの部では「何でも見てやろう」というガメツイ精神が貫徹しており、常に新しいものを求めてやまないフレッシュな気分が溢れている。

探検部では外国行ということがいまや全く現実的に可能な段階に達しており、その意味でも視野の広い、スケールの大きい、国際的な感覚をもつ、行動力に富んだ人間を作ることが大きな目標となっている。ともかく若々しい希望に溢れた部が探検部である。

なお、女性部員も現在4人おり、女性の方々の入部も大歓迎である。

## 写 真 部

2、3年前に盛りあがった写真ブームも最近は低調気味ですが、日本人の写真好きはまだまだ衰えそうもありません。なかなか根強いものがあるようです。

本学の写真部は、その第1の目標を上手に写すことではなく、ある1つの目的に向かって1つの指揮のもとに部員各自が全力を傾注するという点においております。チームワークを重視しています。

現在の部員数は、約25名で何をするにもちょうど手頃な人数です。部会は特に日時を定めず、随時開催しております。何しろ一國一城の主のような部員の集りですので部会では盛んな討論が行われ

ます。技術に詳しい者、批評の方にもっぱら興味をもつ者、他人の批評にも耳を傾けず黙々と自分なりの考えで写しまくる者など、多彩です。講師には全日本写真連盟会員の吉田畔夕氏、吉井如月氏その他の方々にお願ひし、適宜アドバイスをいただいております。

以下に1年間の行事のあらましを昨年度についてご紹介しております。

- 5月 大阪女子大と合同撮影会 (奈良)
- 6月 モデル撮影会 (本学)
- 8月 旧三商大写真展 (神戸新聞会館)
- 10月 1泊2日撮影会 (信楽)
- 11月 大学祭出品 (130点余)
- 12月 年末コンパ、予備校生受験用写真撮影 (夕陽丘予備校)
- 3月 旧三商大合同合宿 (伊豆方面)

その他、毎月1回、部員全員参加による日帰りの撮影会を行っております。

新入生諸君の入部をお待ちしております。

私たちが有史会は、古美術の宝庫たる京都、奈良を掌中におさめよう程近くに居し、十分にそれを利用して、古の栄光と伝統を、古の古淡な美を味わうことを目的としている。初めのうちは案内書を片手に古美術に接近していく訳ですが、次第に仏像とはそもそも何かという一番初歩的な問が心におこってくるはず。そして美術書よりも歴史書の方が大切に思われるはず。ここに有史会の真の目的がある訳ですが、そのためには、仏像や庭や絵画を十分みなければなりません。そこで私たちは月に一回、二班に分けて、古寺を訪ねている訳です。

極度に文明が発達し、都市近代化という名目の下に永遠に古淡な美が失われようとしている昨今、私たち、若いものが古美術に親しみ、まじめに古美術に近かつかねばなりません。昨今の観光ブームを形づくった物見遊山の気持をすてなければなりません。といっても専門家になれというのではなく、要はまじめに古美術にいやーさいの美に近づいて欲しいのです。

顧問に難波宮趾に余命をかけ老いてもなお勉学にはげんでおられる山根徳太郎先生をもっている私たちは本当にしあわせです。

新入生諸君の入部を歓迎します。入部を希望される方部室または4月の例会にご出席下さい。(文責杉本)

## 有史会

## ギタークラブ

新入生のみなさんご入学おめでとう。

皆さんは今や見事入学試験の難関を突破せられて希望に満ちた大学生生活を送られようとしています。さて、わが市大ギタークラブは現在部員数60余名(内女子3分の1)で4年前に創立されたクラブです。定期演奏会もこの春に第3回を迎え部員一同も一層一致団結して練習に励んでおり、他の音楽関係のクラブに比べてもずっと若々しさにあふれ、これから十分に期待できるクラブだと言えます。今やギター音楽は時代の波に乗って非常に勢いで発展しつつありますが、われわれは決して流行を追うのではなく、真のクラシックギターの追求に専念しているのです。皆さんは多分フランス映画「禁じられた遊び」をごらんになったと思いますが、あの中には沢山のスペイン民謡が流されており、そのなかでも「愛のロマンス」はわが国でも親しく演奏されております。

わがクラブはこのようなスペイン音楽から始まり、現代音楽に至るまでのクラシック、民謡、音楽の研究を目的としています。またわがクラブはギター音楽を通じて、友情関係を深めさらに討論会やハイキング、スポーツ等々を行ない楽しく有意義なる学生生活を皆さんと共に送りたいと思っております。

経験の有無は問いません。

楽譜も読めなくて結構です。ただ皆さんの若々しい力強い青春のエネルギーがありさえすればきっと私たち同様名ギタリストになることはまちがいなしです。

私たちは心から皆さんの入部をお待ちしております。なお4月27日には新入生歓迎会を行なう予定ですので部屋にお集まり下さい。

## オーケストラ部

オーケストラ部は市大のサークルの中でも最も活発な活動を行なっている伝統的なクラブの一つに数えられます。実働部員40名、部員を中心にOBや若干の団友で構成される大阪市立大学交響楽団は毎年秋に80名の編成で定期演奏会を市内の大ホールで催します。その他春夏二回の演奏旅行、2回の強化会宿、初夏の旧三商大音楽会等々、部員は、試験期を除いて、一年中その目標を見失うことがありません。

オーケストラはむつかしくて素質のある者とか子供の頃からレッスンを受けたものでないと出来ないといわれますが、そのようなことは絶対ありません。毎春の新入部員の半数は初心者です。クラブ所有の楽器もかなりありますし、初心者への指導は懇切丁寧に行なわれます。オーケストラは誰にでも楽しめるものなのです。



さまざまな楽器の異った音色にたっかもし出される崇高なリズムとハーモニーがこのクラブの絶え間ない活動の推進力になります。またアンサンブル追求によって培われたメンバー間の心の融和が常に部内に渦巻くユーモアとバイタリティーの源となっています。古典音楽探求の合間には、ジャズ、ポピュラー、その他諸々の楽派、?の権威者たちが熱烈に議論がたかかわし、またその実践も行なわれます。実にそのにぎやかなこと。

ファイトあるフレッシュメンの入部を歓迎します。

部室は二号館裏のクラブハウスにあります。

## あすなる

▶あすなるはうたの好きな者の集りです。うたは、教養を鼻にかけるような一部の者の独占物ではない。うたはみんながうたうものです。自分は音痴だと思っている（今までの歪んだ音楽教育からそう思い込まされてきた）人も、私たちと一緒に心からうたおう。

▶あすなるは、今春で3年目を迎えます。現在まで決して順調な歩みを続けてきたとはいえませんが、今は若い意気に燃えています。あすなるを生活の中にうらおいをもたらし楽しみの場として作りあげていくために新入生諸君の若い情熱を求めています。あすなるをこのような場として作りあげていくために新入生諸君の若い情熱を求めています。あすなるをこのような場とし、私たちの素晴らしいうたを合唱を作りだすために、あすなる会員はお互いに理解し合い、素晴らしい人間として成長していくことを目指しています。

▶今までのレパートリーは主に日本や世界の民謡や新しい創作曲などですが、会員のうたいたい曲は広く募っています。

▶レッスンは毎週放課後1回と昼食時2回ほど（予定）。機関紙「あすなる」を発行し、意見の交流をはかっています。1年間の行事には、レッスンの他に、ピクニック、合宿、コンパ、ダベリングや学内外の音楽祭参加など。昨年は日本のうたごえ祭典にあすなるからも、4名の代表が参加し、いろいろなことを学んできました。

デキシー・  
ランドジャ  
ズ・クラブ

◦聖者の行進、などでおなじみのディキシーランドジャズは、愉快的、憂鬱な感情を表したジャズです。市大における唯一の軽音楽部であり、今年で9年目を迎える。秀れた先輩を世に送り、われわれ後輩の誇りとすところ。内容も関西大学中五指に入り、異彩を放っている。大学祭はもちろん市大での花形であり、クラブ員も皆、心意気の合った者ばかりで、楽しい御機嫌のクラブである。

昨年の活動は、5月に歓迎会、夏は美しい日本海で合宿（あまり練習しないで泳いでばかり）、秋は猛練習の後大活躍——コンサート大学祭、京大へ遠征、パーティー、クリスマスダンスパーティーに出演——で、楽しい。入部希望者は、楽器の心配はいらぬ。Tp、Td Cl、Bs、Gui、Ds、P、など揃っており、お貸しします。ジャズの好きな人は誰でも入れます。楽譜の読める人を優先的に歓迎いたします。昨年の一年生5人中、3人は初めて楽器をいじくったばかりですが、今はもう大分上手になり、みんなと一緒に楽しんでいますので、初心者も心配はいりません。

練習と勉学とは、きっぱりけじめをつけているので、みんな優等生揃いです。楽器をいじくりたい方は、当部に入れば、大学生活も楽しさが倍増いたします。最後に、一同諸君の入部を心より歓迎いたします。入部費、500円、部費、月100円

## 箏曲部

白髪橋の作法室あるいは杉本町の部室で琴の音を楽しむひととき……。それは楽しいにつけ、悲しいにつけ私ども奏するものの中に安らぎを与えてくれます。日本古来の静かな柔かみをあの13本の弦に託しているのです。とかく新しいもの、珍らしいものばかりを追い求めながら現代において、騒々しい、あわただしい近頃の日常生活において、お琴の前に座り、幼想の世界に引き込まれるこのひとときもまた大切なものではないでしょうか。

私たち箏曲部は、流派は生田流、部員は現在30名、菊輝美代子先生ご指導のもと4回生から1回生まで和気あいあいとした、家庭的な雰囲気の中で練習に励んでいます。部員一同がひとつの気持ちになったとき始めてひとつの美しい旋律となって流れるものなのです。

音符の苦手な人結構、オンチの人結構、経験のある人はもちろんお琴をみたことのない人でも大歓迎いたします。私たち部員の大部分がそうだったので、すぐに上達します。1年間の活動としては、竹声、箏曲合同リサイタル、関西学生邦楽連盟リサイタル、大学祭、新入生歓迎会出演、他クラブへの賛助出演が主で、その他新入部員歓迎遠足、合宿旅行、ハイキング、忘年会等、部員の親睦を兼ねて行なっています。

入部なさりたい方は、2号館裏の部室において下さい。女性ばかりの気軽なクラブです。

女性合唱団

ご入学おめでとうございます。1年中の最も美しい季節に貴女は人生の新しい扉を力強く開かれました。4年間この大学で過ごされる貴女は数多くのことを学ばれることでしょう。その中で大学生生活と密接に結びついたクラブ活動は貴女の人格形成の上にも大きな位置を占めることでしょう。さて私たち市大女声合唱団も学内3合唱団の1つとして女性ばかりの美しい、楽しい雰囲気のもとで熱心に練習に励んでいます。市大内の少ない女子学生の中から歌の好きな連中が集まってできたクラブですので、歌うことの好きな方なら、どなたでも大歓迎です。長い人生の数々の場面、うれしいとき、悲しいときに自然にでてくる歌をみんなで1つでも多く歌っていきましょう。合唱用に作られた多くの歌の中で、特に女声合唱用に作られた美しい曲、その曲こそ貴女でなくて一体誰か歌うための曲でしょうか。昔から好きこそ物の上手なりといわれています。練習場が白髪橋なので少し遠いのですが、フレッシュでファイトのある貴女なら十分練習にきて下さることでしょう。あらゆる方面に優れた先輩も多いのでいろいろ相談をもちこんで下さい。貴女の入部を心からお待ちしております。

市大混声合唱団

新入生の皆様、ご入学おめでとう。すでに皆様の胸中には、開く大学生活への抱負がフツフツとわき起っていることしょう。そのような皆様の抱負をみたく企画の中に、私たちの混声合唱団でのサークル活動を加えてみませんか。私たちのクラブは来年で十周年を迎える訳ですが、最近は各地で演奏会を開催するようになり、目下発展の途上に混声あります。

毎週、月・木の放課後の定期練習の外に、年数回にわたる強化合宿を実施し、日ごろ猛練習をつみ重ねて合唱技術の向上をめざし、そのときどきの部員相互のふれあいのうちに人格形成を意図しています。昨年度の主なスケジュールは、7月に京都府大合唱団との交歓演奏会（於京都府会館）信州各地での合宿に続く演奏旅行、10月に朝日会館でジョイント・コンサート、11月には、産経ホールでの第2回定期演奏会、3月には横浜・東京での各演奏会などが組まれて着実に実現されてきました。そして目下今年度のスケジュールを検討中ですが、皆様がこれをご覧になるころには、このパンフレットとは別途に、皆様に目にかけることでしょう。今、今年度の活動に入るに際し、1人でも多く皆様が、当混声合唱団に参加して下さることを期待しております。

2/27女責——部長三隅好

吟詠部

当吟詠部は世間一般でよく引継いでくださる「ベンセイシュクシユク」といった、いささか時代錯誤の右翼偏向の詩吟は一切やらない。われわれの詩吟に対する目的は、一つには豪放雄大な詩を吟じて若人の壮大な気宇を養うこともあるが、更に李白とか杜甫のような東洋の詩聖たちの清純愁懐の詩を吟じて彼らの魂にふれ、精神の純化、をはかることこそわれわれの至高となすものである。長い受験生活の結果、ゴビの砂漠のようになった諸君の心の中に、漢詩の朗吟はそこはかとない詩情を呼びさまし「潤い」と「安らぎ」を与えるであろう。また力一杯の腹の底からの朗吟は諸君に、若いエネルギーのはけ口を提供し、精神衛生にも大いに効用がある訳である。

女性の方には和歌をおすすめしたい。啄木や牧水の和歌を詠じて優美の詩境にひたるなら、青春の喜びがわき上ると同時に貴女の生活に潤いが生れる。

現在部員は30名。昨年の主な部活動をご紹介しますと、6月の関吟連大会参加、七月の高野山合宿、11月の発表大会などがあつた。練習は昼習は昼食時旧チャペルで、毎週1回は5時半より医学部にて入部希望の方は昼食時チャペルへきて下さい。入部費は不要、部費は1カ月50円也。

竹声会

難関をみごと突破してこられた諸君、ご入学おめでとう。大学には入ったけれど、西も東もわからず、ただ勝利の歡喜にひたっているのが諸君の現状ではないかな。気軽ににお越しなさい竹声会へ。何もボサッとする必要はない。ぜひきてみなはれ、竹声会へ。読んで字のごとし、われわれのクラブは、尺八愛好者の集まりだ。みんな大抵、大学に入って尺八を手にした者ばかり、経験なんていません。実に朗々一管の竹韻こそ、気品高く日本精神のこもったる余韻囁々として鬼神を泣かしむるにたる。日本人特有の名楽器、興味をお持ちの方は、明日といわず、今日、さあ、すぐに、現在部員数は男子のみ15名、女性の方かて遠慮りません。歓迎します。箏曲部、すなわち、箏とあわせて合奏もやり、一緒に合宿なんかもあります。内気な男性諸君でも、女性との接触の機会も与えられます今年12月11日、第4回、市大竹声会、箏曲部主催邦楽演奏会目指しはり切つて練習をやっている、多くの諸君の入部を期待する。

## 研究会関係

## 創作舞踊研究会

創作舞踊とは何か？この耳慣れない言葉に多くの諸君は戸惑うかも知れないが、今ここで創作舞踊の理論を全面的に展開することはできないが、それは旧来の東西の踊りの一切の論理と断絶したところから発生した。旧来の舞踊は、人間の肉体を素材としての運動が中心をなすのではなく、音楽や振りや物語が先行し、その説明として存在するにすぎない。

人間の運動そのものを素材とする空間芸術——空間を如何に構成するかという美の創造——こそわれわれの目指すものである。といっても、それは人間の社会的機能と全く分離したものではなく、むしろ状況に対する厳しい認識が前提となっているのである。それ故、ダンスの研究会と同じようなつもりで来られては困るのである。と言っても、今まで身体育成などの素養が全くない人でも、健康な身体とあかるといふ頭さえあれば、誰でも入会することができます。

現在、部員は数名で、その内実際の舞踊手は二人にしか過ぎませんが、一つやっつてやろうと思われ方は男女の別なく是非一度話しをしにきて下さい。

連絡先——つのおえ部屋

吉田 (L3) 天津 (L3)

## 現代思想研究会

4月現代思想研究会が発足した時、新入生にむけて書かれたわれわれの呼びかけは多くの嘲笑と軽侮と非難をもって迎えられたが、それは現代思想研究会の出現にふさわしい光景であったのみならず日本の思想状況を何らかの形で反映する市大のそれをもまた鮮かに照らし出すものであった。そのような嘲笑と軽侮と非難は何よりも先ずかの安保闘争を無傷で通過したと錯覚し、一層の飛躍と発展を夢みた部分—彼らはまた、「迷える小羊」である大衆と「危機にあげる」人類の至高の救済者としてふるまっている—から発せられたが、その合唱は「アナーキズムとニヒリズムを善良な人々にまき散らす怪しからぬ者共」というテーゼに集約されたようにみえる。もちろんその未来は美しく、その行先はソ連社会主義と相場は決っている。われわれは彼らのいうアナーキズムが、ニヒリズムがどんなものであるか君達にさし示さねばならぬ。が、もちろん完成された体系があるはずはない。

やがて君達の手もとに、現代思想研究会5人のメンバーがそれぞれ

れ自己の責任において書いた君達への招待状あるいは挑戦状が届くであろう。うっかり見ると目がつぶれるかもしれない。研究会であるからといって卑小なアカデミシエンの集まりと考えないでくれ給え。〈現代思想〉とは棚のボタモチのように純粋客観として存在するのではなく、この現在をどのように明日へ生きて行くか、24時間の生をどのように呼吸してゆくかという問題として存在するはずなのだから。正に現想研メンバーたることは現代の状況に正面から立向う者の存在証明であり、はてしなき泥沼の中を試行錯誤しながら歩もうとする者の片道切符である。

## 映画研究会

映画研究会、なんて楽しく聞えることでしょう。映画の好きな友が集いて語る映画の数々。メロドラマ？時代劇？西部劇？70ミリ？8ミリ？モニタージュ？エイゼンシュテイン？——そうです。映画に関することならあつた汚ないけれどもすばらしいムードの映画部室で討論するのです。どんな小さな問題でもどんなデカい問題でも一生懸命討論するのが映研なのです。映画は娯楽さ、映画は立派な芸術だ、いや映画は絵画の一種さ、映画なんてつまらぬ見せ物よ、——

1カ月1回×2回 団体鑑賞、と合評会、1カ年2回×3回雑誌オムニバス、の発刊1週間1回×2回 理論研究会、映研の3本柱なんです。映画の理論、キネマ旬報、映画評論、シナリオ、こんな本読んでるんです。また財政的に豊かな時は一緒に8ミリ映画を作りましょう。それで？部費？ええたったの100円なんです。今総勢20人一言でいったらね映画の好きな人だったらきつと入ってくるけれど、それほどでもない人だったらきつとやめていく、クラブなんです。ではまたね。部室でお会いしましょう。

京都府宇治市広野町小四

森谷 繁

IMAGI  
ST 集団

本年新たに創設された、現在メンバー一人の集団である。目的は映画を通じて、そこに映像（イメージあるいはイメージ）として表現されている人間や事件を組板にのせて現代社会のまた僕達自身のかかえている諸問題に迫ろうとするものである。どれほどくだらない映画であっても、そこにある映像がフィクショナルなものであれ現実そのままであれ、現代の諸様相を具体的なイメージとしてわれわれに開示してくれるのである。そのようなものとして映画をとらえるとき、もち論映画は娯楽の対象という側面を含みつつも思想

表現の手段として批判の武器として、われわれの討論や研究の対象となる。そのことは当然映画の方法論にまで及ばざるを得ないのであって、この集団においては映画の思想とその方法論があわせて追及されるのであるが、この集団の具体的な方向は僕と君自身によって決定される。創設者である僕は今のところ一介の映画好きにすぎないことを断っておく。以下記憶に残っている、または諸君に推挙する映画をアト・ランダムに書いておく。——灰とダイヤモンド、宿命、勝手にしゃがれ、いとこ同志、真昼の暴動、モダンタイムズ、戦艦ポチョムキン、情事、土曜の夜と日曜の朝、年上の女、真夏の夜のジャズ、巨人と玩具、青い野獣、砂川、青春残酷物語、飼育、日本の夜と霧、太陽の墓場、黒い十人の女、叛逆児、豚と軍艦、サレムの魔女、二四時間の情事、ゲルニカ、ろくでなし、暴れ兄弟。

連絡先——泉佐野市長滝東 菊野吉五郎方

加藤勝美

## 現代文学会 現代詩会

現代における文学や詩の可能性を、自らの主体的行為—創作を通じて追求しようとする者の集団。およそ内容空疎なプロレタリア文学や詩と絶縁しわれわれを取りまく状況——現代帝国主義の綱の目のように張りめぐらされた支配者のイデオロギー（ブルジョア・イデオロギー、小市民的イデオロギー）を一つ一つ粉砕することによって、状況そのものを否定する作品を創り出さねばならない。

何も書けない文学愛好の政治主義者集団である他の同人集団の水ぶくれしたサークル主義を否定し、自己のギリギリ一杯の地点で創作意欲を燃やそうとする者は、小数精鋭主義のわれわれと交わる榮譽を得るだろう。

現代の文学や詩の課題とは、それらを成立させる物質的基盤を解明したところから、出発点を見出す。すなわち、現存の一切のものを否定する透徹した意識を確立したところから、新たな状況を打ち建てる—創作することである。当二集団は、かかる創作者の集団であって、同人はその作品によってのみ交わる。

今まで小説や詩を書いたり、これから書こうとする者は、自己の代表作をたずさえてわれわれの評価を待つべきであろう。言語に対して潔癖な感受性を持つ者は現代詩会同人に、思想と人間の行為に対して鋭い洞察力を持つ者は現代文学会に、無条件に加入する資格があるであろう。

現代文学会・津守尚現代詩会・神旺紀夫

連絡先はいずれも「つのおえ、部室まで

## 実存主義研 究会

どうかうがった表現を許していただきたい。新入生の方にこんな風というのはいは当を得ないだろうが（これ以外にいいようがないので）あえていうなら、自分が死刑囚だと一度でも感じたことのある人は本会に入る資格を持つ。実際30年、40年後には私達は確実に死ぬ。この死刑宣告を手にして誰かいたい自分は死刑囚でないといい切れよう。実存主義者にとっていっさいが無意味であり、いっさいに意味があるというのはこの点だ。刑場に引かれて行く死刑囚には道端の靴ヒモだって意味がある。実存主義のモラルは死刑囚のそれだ。つまりいっさいが無で自由だ。しかし彼は世界から何かを獲得しようとは欲しない。むしろ与えようとする、己だけが幸福でありたくない。すべての人が幸福でなければならぬと思う。なぜなら死はエゴをも否定しざるから。またもし私達の死刑執行人を神と呼ぶなら私達は神を拒否する。

私達は無罪だと思うし、死ぬということは不当だと思われるからそしてこの無罪を神に向って突き付けて行くことが反抗ということだろう。私達の無罪とそして私達の死。この断絶、このうららかなかげろうのたつ四月。しかし最初の原爆機が見たらうこの極東の列島は今日も灰色の海の中にくすんでいる。この世代の危機と全く不感性な日本の作家達。全くの断絶、何ら橋渡しは不可能であることを知り、がく然とした者は必らずや「復活」を叫ぶはずだ。

文二 中野衛連絡

先阿倍野区昭和町中2の8 川原方

## 弁証法研究 会

哲学には観念論と唯物論とがあり、弁証法的思惟と非弁証法的思惟とがあって、観念論や非弁証法的思惟はブルジョア哲学であり、唯物論や弁証法的思惟は科学であり全人類の哲学である。すなわち弁証法的唯物論こそ真に理性とヒューマニズムにのっとった科学的思想である——などというような公式やドグマが今日もなお日本の思想界を君臨しており、市大においても、かかるアカデミズムの縮小再生産を業とする研究会が横行している。正に思想におけるスターニズムの幽霊の再現出にほかならない。

物質の性質は諸々の矛盾の相関関係としてあり、かかる物質の高度表現としての自然や人間もまた矛盾そのものである。人間の歴史やその現段階における世界状況もまた矛盾の自己発展としてとらえられる。弁証法とは、かかる矛盾関係にメスを入れ、その運動の根源を探ろうとするものにほかならない。

当研究会は、かかる意味において、現代のわれわれが発すべき認識を自からの思索を通じて確立しようとするもので、既製の体系

## 現代芸術研究会

化されたマルクス主義の公式を暗記しようとするサークルではない。自からの思考を科学的な思想として定着しようとする諸君は、学部・性別を問わず歓迎する。

連絡先——中執書記局または劇団つのおえ内  
水戸寛治まで

現代において芸術は可能か？芸術の目的とは何か？それは、人間の基本的行為である生産とその上部構造である政治や社会といかなる関わりをもつのか？——これらの間は、マスコミの巨大な物質力を背景とするブルジョア芸術や同次元での裏返しにしかすぎない社会主義芸術の氾濫する現代において、常に変革をこそ唯一目標とする前衛芸術に投げかけられている。われわれは自ら芸術の創造に参加するのではなく、いわば芸術理論—美学の研究を通じてこの間に答えようとするものである。対象とするものは文化・美術に限らず一切の芸術ジャンルにおいて、その根底をなす芸の本質術をなすものである。芸術を創り出す者は芸術創造だけではなく、それを正しく評価する芸術理論もまたしかりである。

現代芸術の多様性を、単に表現形式や手段からのみとらえるのではなく、人間の行為の現代的表現をその社会的関係の中において正しく位置づけること、これが当会の主要テーマなのである。

映画「情事」や「青春残酷物語」を、あるいはサドやサルトルをあるいはダダイズムやシュールレアリズムを正当に評価しようとしていない者や全く分らない者にはおおよそ無縁な研究会でもある。

連絡先——新聞会芹生琢也 または劇団つのおえ、津守尚まで

## 美学美術史研究会

日本の古美術を探訪するサークルは2、3あるが、当研究会はその対象を、日本の美術作品のみに限ることなく、西洋の彫刻、絵画を含めた、広く一般の美術史上の作品を通じて美術史の概要を知らんとするサークルであり、研究会である。たとえば、仏像彫刻、水墨画、障壁画、エジプトの美術、ルネサンス、印象派、現代などそのどれを取っても興味が存するところであろう。当研究会は、人数は少ないが、美術史をかじりたいものが、実作品などを通じて、研究、鑑賞、討論してゆく。発足してまだ1年も経ていないが、昨年の大学祭には「白鳳時代」をとりあげ、仏像に対する鑑賞に深さを加えることができたであろうし、H・リードの「芸術の意味」を少し輪読、討論した。

将来は、人数は余りふえることなくとも、実のある研究会として

地味ながらも、確固たる歩みを保ちたい。

## 古美術研究会

古美術に関心を持つ人が寄り集まりこのクラブが結成されてから1年を経て古美術研一同は和気あいあいたる雰囲気の中で、新年度に夢を託している。未熟ながらも昨年度は夏の北陸合宿を始め、春の嵯峨野の寺、法隆寺、秋の桂離宮、浄瑠璃寺、室生寺と京都や奈良の古きおもかげを残す寺々を訪れては、知識を交換し、古美術への深い関心を通じて結束を深めてきた。今年は春に桂離宮、夏期合宿を鎌倉方面に予定している。新人生を迎え今年さらさら部を発展させようと同は心を燃やしている。

## 科学史研究会

この四月より数少ない自然科学系の研究会として科学史研究会を結成する。市大にも百に近いクラブ、サークル、研究会があるが、にも拘らず理科系の学生に密接に結びつく自然科学をテーマに取扱うものは昨年まではほとんどなかったのである。僅かにフィールド編集部が存在していたのみである。社会科学も自然科学も科学であるが、われわれの扱うのは社会よりもより客観的に存在する自然であり、われわれの任務はその自然の客観的法則性の認識である。従って科学者は科学的という要素を多分にもっている。しかし、だからといってそのまま放置しておいたのでは、その研究自身は科学的であっても彼自身については無関係である。われわれは自然に対すると同様に社会に対しても科学的でなければならない。以上のような意味で自然科学をテーマにした研究会活動がこの一年間追求されてきた。その結果自然研と科技研が生れたのであるが、われわれの科学史研も扱うテーマは科学史であるが、それを通して理科系学生の意識向上に資するということは同様である。

本年度はまだ結成早々であるから、パネル「歴史における科学」をテキストに近代科学の誕生から現代に到るまでの科学と社会の相互作用をみていく。その中から諸君等の目指す科学者や技術者教育者の道を探って頂きたい。勿論文科系の諸君で関心のある人も大いに歓迎します。尚追って広告しますが四月十五日屋学生ホールでガイダンスをやりませう。  
(責任者理四木野)

## 資本主義研究会

今日のいくつかの現実それは国際的なものであれ、国内的なものであれ、多くの人々の中に、ほとんどの政治党派の中に種々の困難と混乱、偏見と欺瞞を生み出している。それは絶望的ときえ思われる。巨大な破壊力を持つ核兵器の存在を見よ！第三次大戦が云々

されたキューバ事件に対して世界の大眾は何ら主体的運動を展開しえなかった。日本平和運動を例に取ってみても無力と腐敗した政治主義が見られる。そして、これらの裏返しとして虚弱なオプティミズムとペシミズムを人々の中に生み出している。

われわれは現体制が必然的に生み出す一切の欺瞞と独善と無気力をたたきつぶすことから始めねばならない。何によってか？強固な論理の展開をもって、それに支えられ、指導された実践でもって。

われわれ「市大資本主義研究会（資本研）」はあらゆる権威と物質力に幻惑されず、腐敗と戦い、多くの知識人やその盲従者たちが権威主義にすぎり、又絶望に陥っている時にあっても、苦悩の中から自らの力で現代社会の諸問題を統一的に把握する論理と思想を追求している最も伝統ある研究会である。平和問題や憲法改悪に対してもわれわれは鋭く切り込んでいる。安保闘争の前後から数年、われわれは新たな論理を追求し蓄積して来た、社会科学の一切の対象（政治、経済学、E T C）に関心を持つ新入生諸君は、入学と同時に資本研の門をたたけ！

## 社会主義研究会

「われわれの問題は仕事と闘争であり、あなた方の問題は将来の仕事のために闘うことです」と米州婦人会議でカストロが誇らしげに語ったように、ロシア革命以来、「社会主義」を標榜する幾つかの革命が行われた。しかし、同じ演説で「革命とわが国の主権をどうやって守り、同時にどう前進を続けるかはわれわれの問題であって、あなた方米州婦人の問題ではありません」とカストロが語るのはどうしたことだろうか。米帝国主義のキューバ侵略を根本的になくするのは何よりも帝国主義に対するアメリカの労働者とキューバ人民の闘争であり、それは全世界のプロレタリアートの闘争に支えられてのみ可能であることを彼は理解できないのであろうか。

また「社会主義社会の建設を成し遂げにわれわれの任務は平和と共産主義社会の建設である」と高らかに宣言したフルシチョフの徒が、ツイストは怪しからんと、その流行の意味を問おうともしないで禁止するのは何故か。

社会主義とは、矛盾が現われれば、その存在理由を明らかにし、矛盾をおさえるのではなく、その根元を除去することによって発展して行く運動ではなかったのか。また日本では自国労働者の闘いよりもソ連の核実験に頼る社会主義者がいる。社会主義とはこんなものなのか？社会主義研究会は醜悪な様々の自称「社会主義」を克服し、正しい社会主義の運動を発展させるために、真の社会主義とは

何かを原理的に研究する者の集団である。新鋭の参加を心から歓迎する。

連絡先 山之内町1丁目 遠里小野荘内 多名賀哲也

## マルクス経済学研究会

マルクス主義は資本主義社会批判の思想であり、経済学はその中枢を占めている。このサークルは経済学を中心にマルクス主義理論の基礎の研究を行ない、深く広い現代社会に対する基本的な観念の確立を目的としている。

マルクス主義は全体として1個の生命体であり、不断に生長発展している。その全体系は体系なき体系、完結点なき完成物である。そしてこのことは他のあらゆる思想、理論が単なる形骸化した体系にすぎないとき、マルクス主義の優位性を示すものである。

ところが、現代の公認マルクス主義は「マルクス主義の創造的発展」というかけ声とはうらはらに、その実体は空洞化され俗流化されている。われわれはこのような空洞化、俗流化を排し、マルクス主義をその始源の姿で把握し、そのたくましいエネルギーとはつらつたる現実性を自らのものにせんとするものである。

そしてここに新たなサークルが創られた。従ってこのサークルがどこへまたどれだけ発展するかは、諸君の主体的な参加と活動のいかんにかかっている。

最後に、このサークルは、経済学オンリーの研究会ではない。マルクス主義は全ての科学部門を包括するものであり、各部分は内部で緊密に結びついているからである。従って参加者の学部は問わないし、事実そのことは研究に何のかかわりあいもないのである。

## マルクス主義研究会

「社会主義国」ソ連による核実験「社会主義国」中共とソ連の「論争」この現実には1体何を示しているのか。1956年のハンガリア労働者の蜂起に対するソ連軍の血の弾圧は？

労働者階級の解放の思想、人間性解放の理論「マルクス主義」のかかる反人民性、反労働者性的「理論」への墮落、歪曲の現実。

マルクス主義は既に古くなったのか？

マルクス主義とは、そもそも、どういふものなのか？

われわれマルクス主義研究会は、マルクス主義のかかる歪曲、墮落の原因を追求し、真に労働者階級解放の武器として、打ちたてていくことを目的として、そのための基礎的研究会である。

学生運動に興味ある新入生諸君、社会運動、労働運動に関心ある諸君！マルクス主義研究会に集ろう。

部室場所……3号館裏・自治会室 サンパツ屋横



## 経済・哲学 基礎研究会

受験生活から解放され、大学へ入った途端に、自治会活動家なるものの一方的なアジ演説に押しまくられてウンザリし、自治活動に無関心になり、そしてただ家と学校の間を往復するだけの学生生活——このような生活は絶体を送るまい、生きた毎日を積極的な毎日を送ろうと私たちは、昨年から学習を始めました。

経済や哲学を学び、自主的に考え、自分の認識を真に科学的なものにし、正しいものの見方、考え方、実際問題を解決する能力を身につけようという趣旨のもとに学習をすすめています。

研究会には、学習経歴、読書能力、活動経験などの条件の違ったいろんな人がいます。しかし、私たちは、これらの会員がみんな共に考え学んでいこう、また、自分の条件に応じて自発的に学び研究していくことを目指しています。

昨年九月から学習し始め、春休みには教授10数人を呼び、計12回にわたり学習会を開き、大変好評をえました。4月にも、このような講座を開催する予定です。本年度の具体的な計画などは、皆で考えましょう。

連絡先 阪口徳雄(法2) 岸和田市上白原町36

## 社会科学研 究会

私達の研究会は社会科学の基礎理論を研究し、一回生を対象にしたものです。新入生諸君ノ諸君が大学生活の第一歩を踏み出す教養課程の意義はまず第1に確固たる科学的世界観を確立するにあると思います。もしそれが確立していなければ専門の分野に分け入ることはおおよそ不可能ではないでしょうか？私たちは科学的、合理的な世界観を追求し、歴史社会の運動の中に、どのような社会法則がどのように貫徹されているかを皆さんと一緒に探究して行きたいと思っています。大学生活は諸君の自主的な学問研究活動を要求しています。そのためにも研究会に参加し、大いに議論し、実践し、積極的に科学的世界観を追求して行く必要があるでしょう。諸君が現在どのような考えを持っておられようと結構です。私たちは諸君の積極的な知識欲に期待し入会を歓迎します。昨年の活動を紹介させていただきますと、ポリッセル「哲学入門」、エンゲルス「空想から科学へ」などをテキストとして積極的に学習しました。その結果研究成果をまとめた小冊子が今春発刊されることになりました。

待望の法学徒の栄冠を勝ち取られた諸君おめでとう。諸君の多くは司法試験を目指して法学部へ入学されたと思うが一体どんな態度で法律を学ぶべきなのか少々述べてみよう。ここで注意してほしい

## 政治法律研 究会

のは法律を学ぶということは単に法典(憲法典・民法典など)の条文を解釈したり、どんなケースにどの条文を適用するのかを学ぶだけではないということである。われわれは社会科学の一分科としての政治法律を学ぶべきであってことに教養課程ではまず基礎的なものの考え方を身につけ、リーガルマインドを養うこと大切である。一般には法は社会生活を規制しているものとしての側面からしか認識されていないが、われわれは更に進んで何故法を遵守する義務があるのかとか法の制裁力は何に由来するのかを根源的に考えてみる必要がある。そうすれば当然われわれ市民と国家あるいは国家と社会の間にはどんな関係があるのかとか、国家とは一体何なのかといった疑問が出てくる。

また法律の性格は法思想の発展とともに色々と変化してきたが現在でも資本主義国の法と社会主義国の法はその性格に大きな差異がある。これも重要な研究対象である。昨今大学管理法が社会問題となり、また憲法が改憲されようとしている。われわれ法学徒はこのような政治情勢にも無関心であってはならない。以上のような基礎的な問題を自主的に研究するのが「政治法律研究会」の目的である。当研究会はジュニア向きの法学部唯一の研究会なので気軽に入会されるようお勧めする。

## 中国研究会

中国研究会というのは名の示す通り中国に関して研究していく過程において、何もかをつかもうとするサークルです。

中国は、歴史的地理的にみても日本とは関係の深い国ですが、様々の政治的事情により戦前や戦後の中国の現実を具体的かつ根底的に研究されることはあまりないように思われます。しかし、朝鮮戦争や最近の「中ソ論争」をみても分るように、現代世界の動向に関して中国が一つの巨大なエレメントとして存在することは何人も拒否することはできません。しかも日本において行なわれている評価は、単なる「地理的、歴史的な親近感」に基くものや、あるいはジャーナリスティックな「好戦的な共産国」などという謬見、これとは全く逆の「偉大なる中国万才」式のものが一般的なようです。

このような中であって、私達中国研究会は自らの力で、真の中国の姿をつかみあてたい。そのためにまず「社会主義論」の学習を通じて巷間に汝濫しているがごとき俗物的な社会主義観を拭い去った上で、絶えざる変化と革命を今もなお展開している中国をみていきたい。また最近世界の話題をさらっている中ソ論争なども偏見を持って中国を眺めるのではなく以上のごとき視点から徹底的に明らか

## 教育研究会

にしていきたいと考えています。「中国」によりかかるのではなく自分の思想を磨く契機として中国を研究してゆきたいと望み、元気よい人の参加を歓迎します。

科学的民主的な教育科学の確立と、大学教育の諸問題の究明を目的として、去年設立された新しい研究会である。

大学制度の全面的改定に強く現われているように、現在日本の教育には、あらゆる方面から再検討とさらには一層の発展が要請されている。教育白書にみられる教育観の問題や、高校全入問題など様々な問題がまさに渦まいているといえる。社会の進歩、国民の精神形成に非常に重要な影響力を持つ国民教育を、真の科学に基づいた平和的民主的なものにするには、われわれ全てに課せられた国民的課題である。

前記の目的に向かって、この研究会では基本的な教育理論、教育思想の研究および現代の重要な教育諸問題と究明を行なう。またその研究を土台に、全国教育学生ゼミナールに参加する。去年は、労働教育思想の発展過程と、科学技術教育をとりあげた。

教育、教育問題に関心ある方、教職課程を取る予定の方、共に研究しよう。  
(文責田中)

## 簿記会計研究会

当サークルは、昨夏結成されたばかりの、サークルの卵である。会計学の基礎たる簿記の実務力を、各種検定試験を通して身につけ進んでは、税理士、公認会計士試験にも取り組まんとする同志の集まりである。今年は何かテーマを設けて共同研究をしたいと思っている。志ある人は入会して、今後の発展に協力願いたい。

## 海外事情研究会

本研究会は昨年6月発会し、学内においてそのユニークな存在を誇っている。会の性質として海外諸地域の社会、風俗、習慣、文化さらに現在の世界情勢を各専門分野、および各興味の対象分野から比較、討究し、国際人としての広い知識を身につけることを目的としている。本会は興味の対象により、各専門地域研究班をもち、各研究班の活動方針に従って週1回の週例会を開きました月1回全研究班の成果の交換、検討する月例会を開いている。現在アジア、ヨーロッパ、北米、南米の四研究班を構成しているが本年4月からさらにアフリカ、中近東など諸地域へも手を伸ばしていきたい。この頃やや若干のゆきづまりがないでもないがこれは当然新入生諸君の活躍により打開されるものと期待している。なお、入会手続その他は

配布のピラに示してある。

## W・U・S

W・U・SとはWorld University Serviceの略称です。

さてServiceといっても別にキリスト教団体のような意味でのサービス、すわち学生、教員、職員の三者が健全に手を結びよりよき大学作りを行なおうとするものなのです。確かに現実の社会ならびに大学を直視するときそう簡単にこの大目的に到達することはできません。だがやはり、寒々とした校舎、設備、大学生同士が心をわって話しあう場の欠如、学生と教職員との親睦のなさ……とみたととき、このままではいけない。何とかしなければ、といった心情のもとに私たちは学外のメンバーと共にWUSを通じて次のような活動を行なってきました。

○セミナー開催——講演を聞き教職員と学生とがひざを交えて大学の問題や人生の問題について話しあう共同生活の場。関西地区、大阪地区、国内の三つ。

○読書会—大阪地区として月二回、全体と個、というテーマ。テキストは「現代のヒューマニズム」「昭和史」「トニオ・クレゲル」「弁証法とはどういうものか」など。

○厚生問題（アルバイトなど）の各大学調査。

○機関誌「WUSのなにか」月1回発行WUSでは他大学の男女学生、教職員とも話し合い研究しあうことができます。それによって市大の特色もおのずと認識でき各大学同士の共通の悩みも認識し大学生としてのみずからおかれた立場がいかなるものであるかを痛切に感じられましょう。

## 部落問題研究会

差別と貧乏をなくし、日本を真に民主化するために、市大部落問題研究会に入ろう！

定まった職業もなく、日雇、土工などをして、食べるのが精一杯という生活、あるいは、劣悪な、しかもわずかな土地しかもたず、細々とした農業を営み、内職、行商などを兼ねてやっと生きているという生活を、現実「部落」の人々は、よぎなくされている。封建時代に身分制度として固定された部落差別が、資本主義社会になり、民主主義が普及したといわれる今日もなお存在し、部落の人々が、基本的人権を無視され、賤視観念と貧困をよぎなくされているのは何故か？どうすればこの賤視観念や貧困をなくすることができるか？部落まわりや、講習会、学習会を通じて、これらの問題を、さらには、働く権利を奪われ、生きる権利をも奪われんとし

## 婦人問題研究会

ているスラムなどの底辺の問題を広く研究してゆきたい。差別と貧乏をなくし、日本を真に民主化するために、市大部落研究会に入ろう。

御入学おめでとうございます。

新しい大学生活に胸をときめかし何かを自分のものにしたいたいという意欲にもえておられることと思います。そこで私達の研究会を知ってもらって一緒に研究をしていくことをここに提唱したいと思えます。

今迄に「女の子は大学に行かなくても数年お勤めして結婚する方がよい」と両親に大学受験を反対されたり、又家庭内で女の子だからという色々不利な立場に置かれたり、その様な経験のない人達でも、男子の人達も漠然と母親の生き方に疑問や不満を持たれたことがあると思います。また皆さんは「戦後強くなったのは靴下と女性だ」という言葉を耳にされたことがあると思います。確かに婦人は無視しがたい力を持ち始めたと思われれます。明治以後の資本主義の発達の中で女工として婦人労働者の進出が始まり、また戦後の女子労働の発展の中で江戸時代のものいわぬ婦人から脱皮して大きな社会的な力をもった婦人になりつつあるのですが、まだまだ実際には厚い壁があるし、婦人に対する差別も残っていると考えられます。働く婦人の問題を考えてみてもただ婦人だけの問題として考えられないし、また解決することのできない大きな問題です。私達は婦人問題を科学と基本的人権に基づいて歴史的思想的に探究しかつ人類の発展に寄与するために婦人の解放のために研究を通じて貢献することを目的とします。

男女学生のみなさん、

ともに婦人問題を研究していこうではありませんか。

## 新聞会

「大阪市大新聞」は、昭和24年大阪市立大学の発足とともに創刊号を出して以来、本学で唯一の報道機関として活躍し続け、すでに第220号に達した。その間14年の社会情勢は常に「逆コース」の時代として存在し、特に本学独自の課題として学舎返還闘争は十年間を要した。市大新聞は諸反動政策に対する闘争と学舎返還闘争のために常に有効なキャンペーンを行なってきた。まさに市大新聞の歴史はそれらの闘争の歴史そのままだった。

市大新聞は本学唯一の報道機関であるが故に、他のいかなるサー

クル、研究会とも性格を異にし、公的な使命を負っている。学内のすべての動きをキャッチし、報道するのは勿論のこと、学生と深く関係のある事柄を細大もらさず報道している。

われわれは市大新聞を紙面化するにあたって、歴史的必然に逆らう諸反動政策に対しては鋭い批判を行ない、戦い続ける覚悟である。

すなわちブルジョアとプロレタリアートの階級対立の現代社会にあって、われわれは市大新聞を編集する時、矛盾の上に基礎をおく資本主義体制を維持しようとする支配者層の諸反動政策を粉砕し、支配体制の甘美な幻想性を暴露して行かなければならない。一方、このような体制の矛盾を止揚するために闘っている陣営の真摯な声を紙面に反映しつづけるであろう。

市大新聞の紙面は、ブルジョアのアデオロギーの欺瞞性を暴露するため、また、反対制陣営内のアデオロギー論争によって各潮流の政策の相異を明確にして、学生にその良否を問うためにきかれるのである。今後、出てくる諸反動政策は憲法改悪に向けてすべて収れんする事実を直視し、鋭い批判を行ないつつ、諸反動に対しては確固たる挑戦を行なう決意である。

以上、市大新聞の歴史と任務のあらましです。

新聞会では新聞の編集活動を通して、大学生活を有意義に過ごすとする柔軟で新鮮な頭脳とファイトある新入生の入会を歓迎します。

## 医学部 サークル

医学部は人間相手の勉強をするところであり、しかも極めて複雑な人間を相手にするものである故に、そこから生じる問題も多種多様である。そこで、教室を土台としてこれらの問題を追求するものとして各サークルが生まれた。また、医学部が杉本校舎にないという地理的条件、六年制、カリキュラムの内容などのため、全学的サークルには参加しにくいことから、体育サークルも独自に存在している。運動サークルにはラグビー、サッカー、硬軟庭球、準硬式野球、バスケット、バレー、卓球、バドミントン、スキー、自動車、柔道、山岳部などがある。毎年秋には西日本医学生総合体育大会（通称インターM）があり、全サークルが参加する。

文化サークルには新聞会、社会医学研究会、ユマニテ、混声合唱団、オーケストラ、ギター、厚生学院（看護学院）との合同読書会 B・C・W（生物・化学・兵器）研究会がある。特に社医研は、例年単独で全国ゼミに参加している。一般的にみて、毎年医学部サー

クルは人員不足をかかってゐるが、各サークルは疎遠になりがちな教養一専門のつながりを密にする役割りを果たしている。新入生諸君の意欲的参加を期待してやまない。

## 原稿の出ていないサークル

弓道部  
サッカー部  
スキー部  
硬式野球部  
(同好会) バスケット部  
柔道部  
ラグビー部  
バレー・ボール部  
アイス・ホッケー部  
相撲部  
軟式庭球部  
漕艇部  
ハンドボール部  
陸上ホッケー部  
空手道部

剣道部  
陸上競技部  
ユース・ホステル同好会  
体操部  
応援団  
自動車部  
水泳部  
馬術部  
能楽研究会  
グリー・クラブ  
茶華道部  
囲碁部  
文学論研究会  
考古学研究会

憲法問題研究会  
杉本文学  
キリスト教研究会  
唯物論研究会  
現代資本主義研究会  
現代マルクス主義研究会  
経済学基礎研究会  
青唱  
朝鮮文化研究会  
現代経営学研究会  
自然科学研究会  
科学技術論研究会  
平和問題研究会  
シェークスピア研究会

## 行事日程

四月十一日  
—— 入学式  
四月中旬  
—— 新入生歓迎会  
五月下旬  
—— 中執選挙  
六月上旬  
—— ボート祭  
七月十一日  
—— 夏期休暇  
九月下旬  
—— 前期テスト  
十一月下旬  
—— 大学祭  
十二月下旬  
—— 冬期休暇  
二月上旬  
—— 後期テスト  
二月中旬  
—— 春期休暇

## 企画に主体性を

### 一行事案内

**新入生歓迎会** われわれが「夢の花苑」にいる時も、あらゆるものを「商売」の対象とし、あらゆる関係を「もうけること」が支配するこの社会の現実、瞬時の中断もなくわれわれを押し流している。「大学」へ入って解放と、そしてちょっぴり不安を感じている？君が呼吸しているこの空気は、いかなる状況を包んでいるのであろうか。君がひとりで生きえないのと全く同様に、また君は全状況を君自身でひきうけねばならない。新入生歓迎会は、はてしない対話と闘争の一つの序詞である。

**ボート祭** 6月になると、ボート祭が開催される。池に浮んでいるボートでさえ満足に漕げない者が4人集り、立派な競艇用のボートを駆って桜宮公園の源八橋から銀橋を競い合うのは、なんとも楽しいものである。毎年百チーム近くが参加し、女性が美しい？大根脚をふんばって黄色い声で号令を飛ばすのも、このボート祭ならではのことである。

**大学祭** 11月初旬には大学祭が1週間にわたりくりひろげられる。新たな文化への意欲とその創造は何によって可能であろうか。過去の一切の文化われわれの全生活の現実から、新たな文化、思想を創成せしめてゆく生涯の場として大学祭はある。

## 歓迎会への誘い

現代日本の教育は、少なくとも被教育者から見る限り、高校と大学の間で切れている。すなわち、高校、浪人とウツ積した青春のエネルギーを胸3寸の中に閉じ込められ、いらいらした状況から、今諸君もかつてのわれわれと同じように解放されて、新しい時点に立っている。しかし、大学で与えられる教育内容について過大な期待をもってはならぬ。そのような幻想は幻滅を結果するだけである。むしろ、今こそ一切の大学に対する期待を放棄し、われわれのおかれている状況の真相とその厳しさを見つめねばならないであろう。

新入生歓迎会はかかる意味をもって開催される。無意味な学芸会を本年は廃止して映画・演劇・講演を企画したゆえである。個々の具体的内容については、別紙にて案内する予定である。諸君が自らの状況を認識するつもりがあるなら、自治会主催の歓迎会に全員出席されたい。

(新入生歓迎会委員長・安部純司)

発行日	1963年4月1日
発行者	大阪市立大学自治会 中央執行委員会
発行責任者	加藤勝美
編集責任者	細見茂行・戸嵜博夫
印刷所	関西共同印刷所

